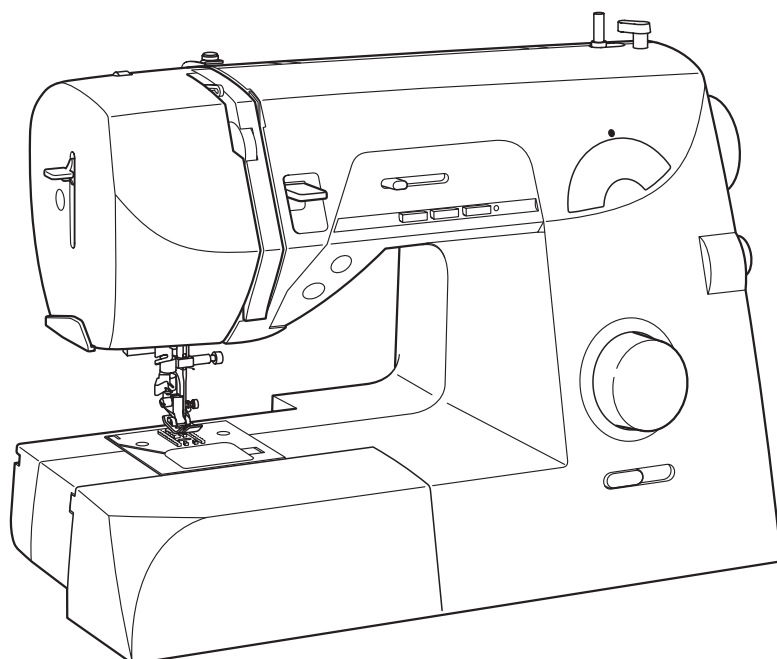




JAGUAR



FJ-900

★ご使用前にこの『取扱説明書』を十分お読み下さい。

★この『取扱説明書』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。


取扱説明書


＝ 安全にご使用いただくために ＝

- ◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。


 警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。


 注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。

絵表示の例


















 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

 記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。















警告

感電、火災の恐れがあります

 <p>このミシンは国内専用です。 一般家庭用交流電源 100 V 以外の電圧では使用しないでください。 異なる電圧で使用すると火災・感電の原因となります。</p>	 <p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電やけがの原因になります。</p>
 <p>以下のような時は電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れる時 ・ミシンを使用しない時 ・ミシンのお手入れをする時 ・ミシンを移動させる時 ・ミシン使用中に停電した時 	 <p>コンセントから抜く時は、コードを持たずに必ずプラグを手で持って抜いてください。 コードを引っ張ると内部で断線し、感電や発火につながる恐れがありますので大変危険です。</p>  <p>電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、何かに巻きつけたりしないでください。 また、コードが重いものの下敷きにならないようにしてください。 コードが内部で断線したり破損して、火災・感電の原因になります。</p>
 <p>ミシン、電源コード、電源プラグ等を水につけたり濡らしたりしないでください。 ぬれた布やぞうきんでミシンを拭かないでください。 スプレー状のクリーナーなどをミシンに直接噴霧しないでください。 浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所での使用や保管はしないでください。 火災・感電の原因となりますので、万一濡れた場合は絶対に使用しないでください。</p>	 <p>お客様自身での修理、分解、改造はしないでください。 火災・感電・けがの原因になります。 修理が必要な場合は、お買い上げの販売店か販売元までご相談ください。</p>
 <p>ミシンの内部に金属類や燃えやすいものなどの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。 火災・感電の原因となりますので、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>	 <p>ミシンの上に乗らないでください。 倒れたりこわれたりしてけがの原因となることがありますので、特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>
 <p>ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさないでください。 感電や故障の原因になります。</p>	 <p>ほこりの多いところで使用しないでください。 電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが付いている時は、乾いた布でふき取ってください。 そのまま差し込むと火災の原因になります。</p>
 <p>ミシンをぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。 また、毛布やクッションなどの柔らかいものの上にも置かないでください。 落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因になります。</p>	 <p>ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにしてください。 万一引き込まれてしまった場合は、ただちに電源を切って取り除いてください。</p>
 <p>ミシンの通風孔をふさがないでください。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>	 <p>雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。 感電の原因になります。</p>

⚠ 注意

感電、火災、けがの原因となります

 <p>禁止</p>	ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用下さい。	 <p>注意</p>	ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品のご使用はお控えください。ミシンの動作が不正確になる場合があります。
 <p>注意</p>	最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。	 <p>注意</p>	お子様のご使用になる時やお子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。
 <p>注意</p>	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。	 <p>禁止</p>	以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none">針を交換する時上糸、下糸をセットする時
 <p>禁止</p>	曲がった針はご使用にならないでください。	 <p>禁止</p>	ミシンを動かす時は、かまカバーを閉じてください。
 <p>禁止</p>	縫う時は布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。	 <p>注意</p>	業務用としてのご使用はお控えください。過負荷による故障の原因になります。
 <p>禁止</p>	お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。 変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。	 <p>禁止</p>	ミシンに以下の異常がある時はすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none">正常に作動しない時水にぬれた時落下などにより破損した時電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなった時異常な音やにおいがする時
 <p>注意</p>	最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。		
 <p>注意</p>	針の下に指をいれないでください。けがをするおそれがあります。		

「自動停止装置」について

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。

「安全装置」について

- ◆ このミシンにはモーターの加熱を防ぐため温度ヒューズが付いています。長時間低速でミシンを使用すると、ミシンが停止することがあります。ミシンが停止した場合は、ミシンの電源を切り、しばらく休ませた後、再度電源を入れてご使用ください。

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称	4 ~ 5
電源のつなぎ方(フットコントローラー)	6
操作スイッチ	7
スピードコントロールレバー	8
糸ごまのセット	8
押え上げ	8
押え圧力の調節	9
送り歯調節レバー	9
フリーアーム(筒縫い)	9
返し縫いレバー	9
縫い模様表示パネル	10
ぬい目長さ・スーパー切換えダイヤル	10
ジグザグ・基線切換えレバー	10
大型補助テーブルの使いかた	11
下糸の巻き方	12 ~ 13
ポビンのセット	13
針と糸と布の使い方	14
針のとりかえ方	14
上糸のかけ方	15 ~ 16
自動糸通し器の使い方	16
下糸を余分に引き出しておきたい場合	17

2. さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた	18
直線縫い	19 ~ 23
縫い方向の変え方、仮縫い(しつけ縫い)	20
ファスナーつけ、パイピング	21

縫いにくい布地の縫い方	
薄物・厚物・段縫い	22
上糸調子のとり方	23
押えのとりかえ方	23
ジグザグ縫い	24
サテンステッチ(密着縫い)	24
かくし縫い(ブラインドステッチ)	25
点線ジグザグ縫い	
裁ち目かがり、つくろい縫い	26
シェル縫い	26
つき合わせ縫い	26
スーパー縫い(ストレッチステッチ)...	27 ~ 28
直線伸縮縫い・ジグザグ伸縮縫い	
オーバーロック縫い(右)・スモッキング縫い	
オーバーロック縫い(左)・	
エラスチックオーバーロック縫い・	
フィッシュボーン縫い	
飾り縫い	28
ボタンホール(ボタン穴かがり)	29 ~ 30

3. ミシンのお手入れ

送り歯とかまの掃除	31
-----------	----

4. ミシンの調子が悪いとき、

次の原因を確かめましょう	32
--------------	----

5. ミシンの梱包

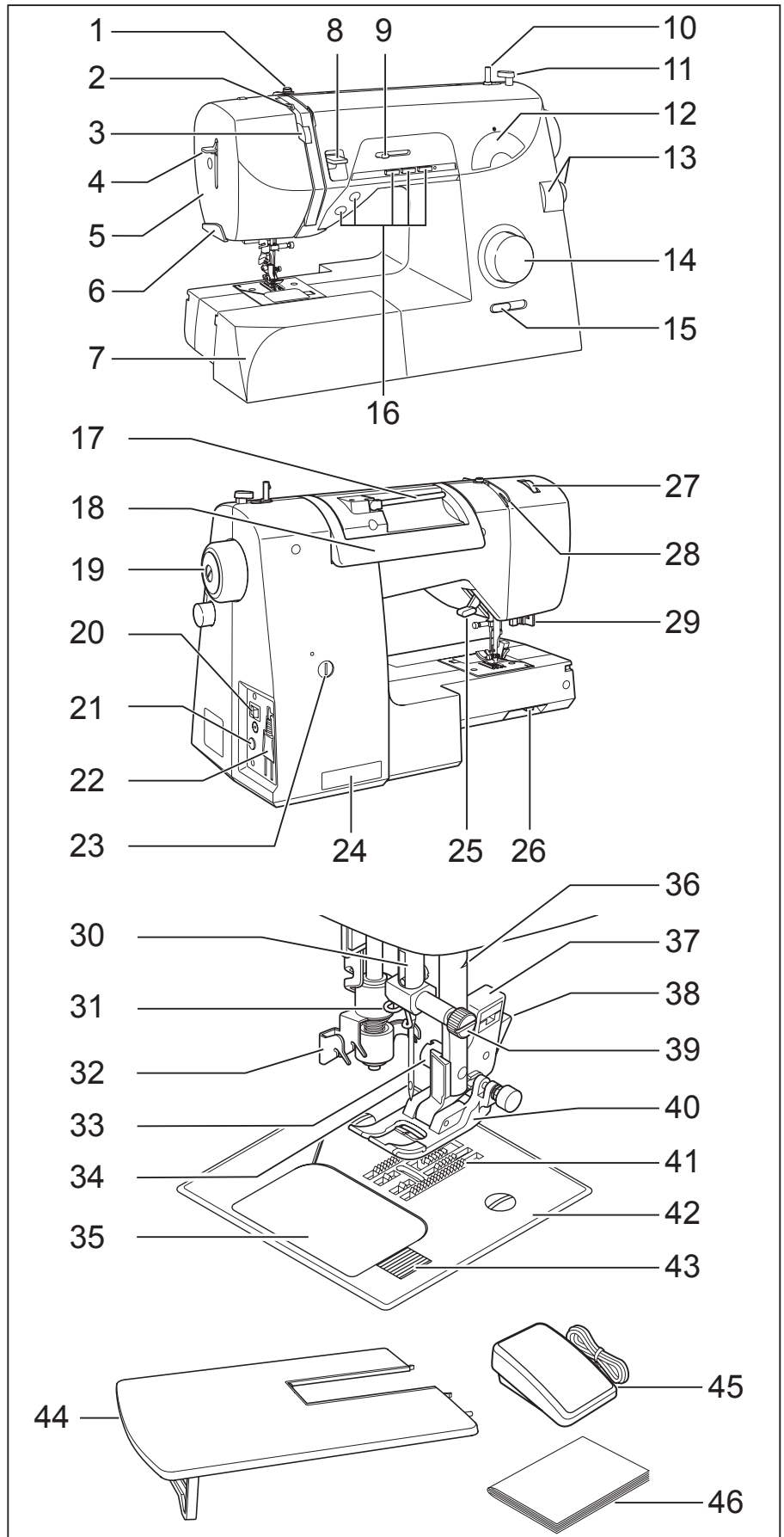
ミシンの仕様

本体寸法	: 巾43.3×奥行19.9×高さ30.7(cm)
本体重量	: 8.2kg
	10.2kg(ハードケース付き)
定格電圧	: AC100V
定格消費電力	: 60W
定格周波数	: 50/60Hz

1. ご使用になる前に ……

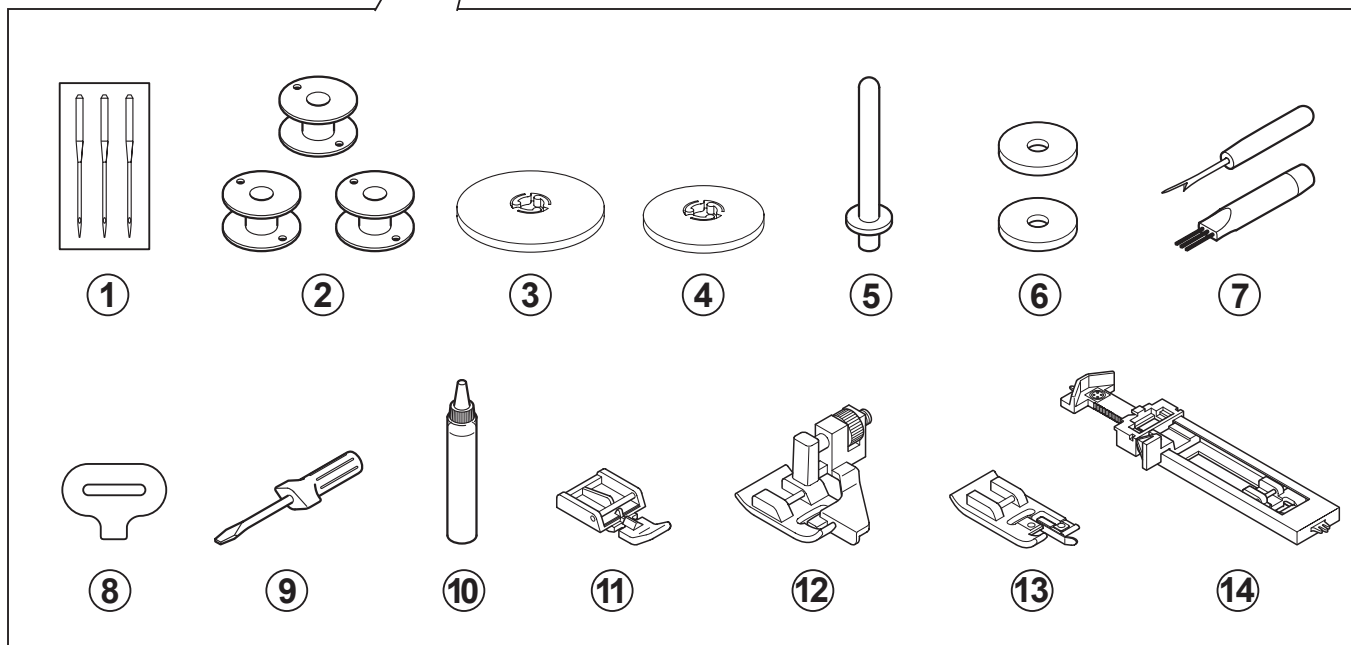
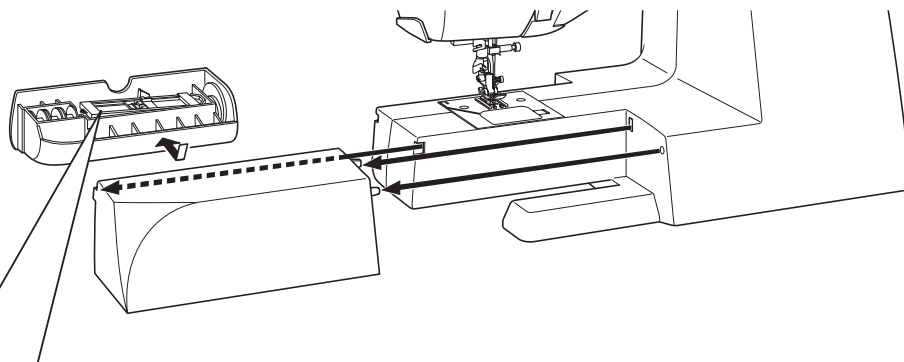
各部の名称

1. 下糸巻き案内
2. 天びん
3. 上糸調子ダイヤル
4. 糸通しレバー
5. 面 板
6. 糸切り装置
7. 補助テーブル（付属品入れ）
8. 返し縫いレバー
9. むい幅・基線切換えレバー
10. 下糸巻き軸
11. 下糸巻き押え
12. 縫い模様表示パネル
13. むい目長さ・スーパー切換えダイヤル
14. 縫い模様選択ダイヤル
15. スピードコントロールレバー
16. 操作スイッチ
17. 糸立て棒
18. ハンドル
19. プーリー
20. 電源スイッチ（ライトスイッチ兼用）
21. プラグ解放スイッチ
22. 電源プラグ
23. 微調整ネジ
24. 機番プレート
25. 押え上げ
26. 送り歯調節レバー
27. 押え圧力調整ダイヤル
28. 糸案内
29. ボタンホールレバー
30. 針 棒
31. 針棒糸案内
32. 糸通しガイド
33. 押え止めネジ
34. 針
35. かまカバー
36. 糸切り刃
37. 押えホルダー
38. 押え解放レバー
39. 針止めネジ
40. 押 え
41. 送り歯
42. 針 板
43. かまカバー開放レバー
44. 大型補助テーブル
45. フットコントローラー
46. 説明書



■ 図の様に付属品入れのふたを開けると付属品が入っています。

- ① ミシン針 (#14 × 3本)
- ② ボビン (× 3)
- ③ 糸ごま押え (大)
- ④ 糸ごま押え (小)
- ⑤ 糸立て棒
- ⑥ 糸ごまクッション (× 2)
- ⑦ ブラシ付きシームリッパー
- ⑧ 針板用ネジ回し
- ⑨ ネジ回し (小)
- ⑩ ミシン油
- ⑪ ファスナー押え
- ⑫ かくし縫い押え
- ⑬ 端縫い押え
- ⑭ ボタンホール押え



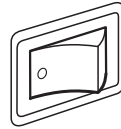
電源のつなぎ方



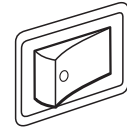
注意

ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

電源スイッチ
「OFF」

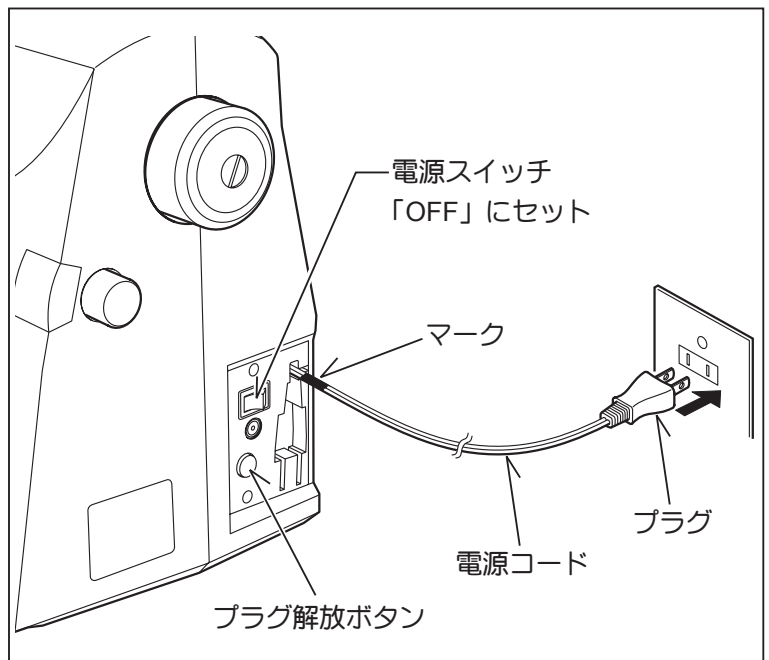


電源スイッチ
「ON」



■ フットコントローラーを使用しない場合

- 電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 電源コードは、コードリール式になっています。プラグ解放ボタンを押してプラグを取り出し、電源コードを引き出し、プラグを電源に差し込みます。
(注) 電源コードの黄色のマーク以上は引き出さないでください。
- コードをしまうときは、少し引っ張って離すと自動的に巻きこみます。プラグを元の位置に差し込みます。
- 電源スイッチを押して電源を入れます。(照明ランプも同時につきます。)



■ フットコントローラーを使用する場合 ■ 電源のつなぎ方

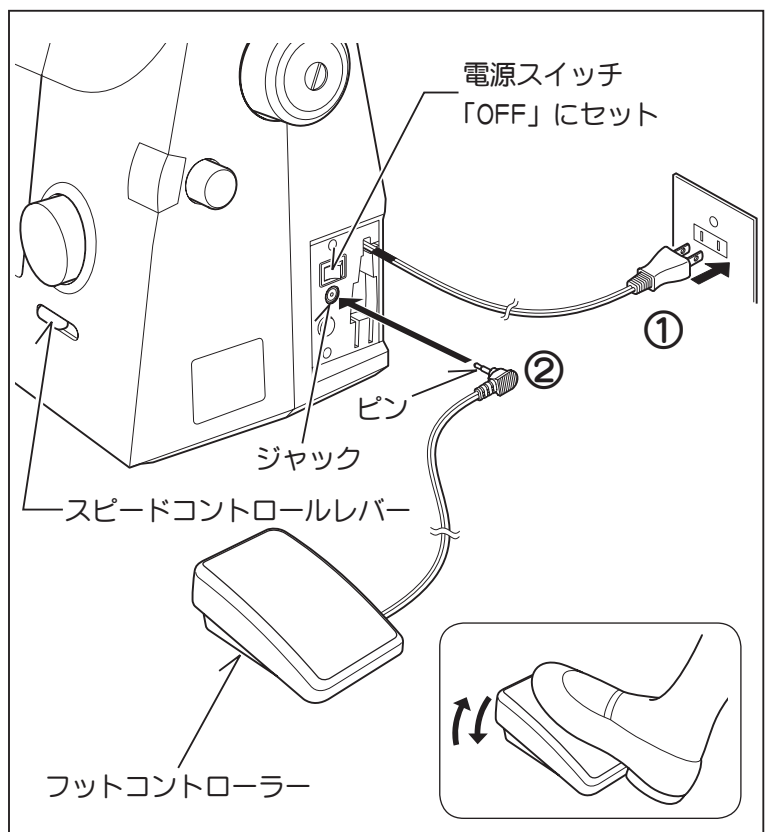
- 電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 電源コードのプラグ①をさしこみます。
- フットコントローラーのピン②を、ミシンのジャックに差し込みます。
- 電源スイッチを「ON」にします。

■ スタート

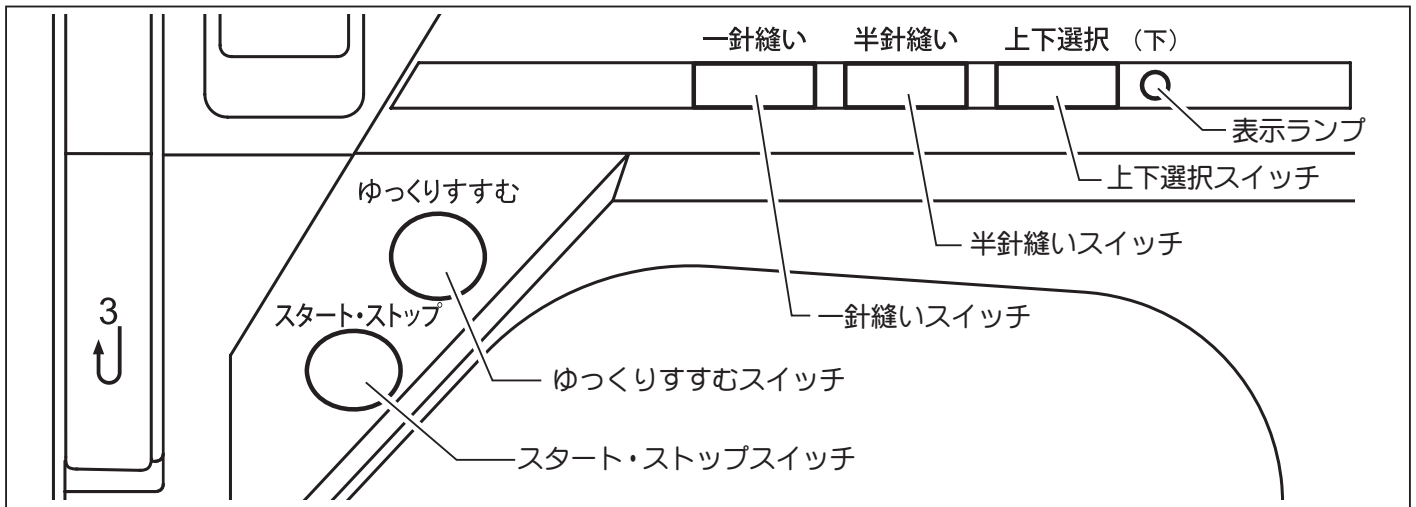
フットコントローラーを大きく踏むとミシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。

フットコントローラーの接続中は、スタート・ストップスイッチは使用できません。

(注) フットコントローラーを使用する場合、スピードコントロールレバーの設定位置が、フットコントローラーの最高速度になります。



操作スイッチ



■ スタート・ストップスイッチ

電源スイッチを「ON」にした後、このスイッチを押すとミシンが動き出します。もう一度押すと、針は常に上に上がった位置で止まります。

⑧ フットコントローラーを使用する場合スタート・ストップスイッチは使用できません。

■ ゆっくりすすむスイッチ（最低速縫い・停止スイッチ）

ミシンが動いているときにこのスイッチを押すと、瞬時に速度が落ちゆっくり縫い始めます。押し続けている間だけゆっくり動き続け、スイッチから手をはなすとミシンは停止します。

⑧ このスイッチはミシンをスタートさせるスイッチではありません。

■ 一針縫いスイッチ

このスイッチを押すと、一針だけ縫い停止します。

■ 半針縫いスイッチ

このスイッチを押すと、上にあった針は下へ、下にあった針は上へ移動します。

■ 上下選択スイッチ

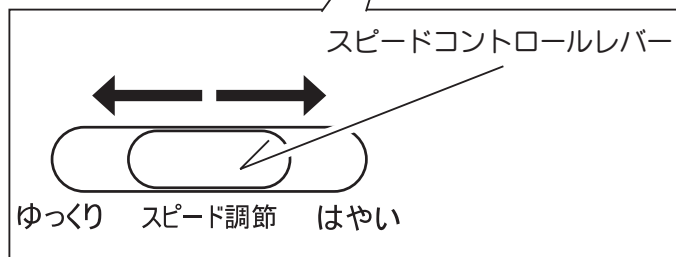
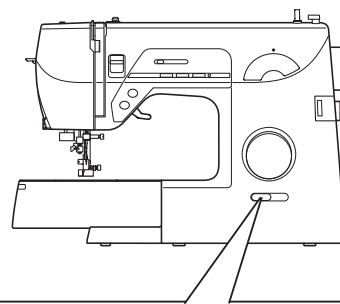
ミシンを停止した時の針の位置を選ぶことができます。電源を入れた時は、針は常に一番上で停止するように設定されています。

スイッチを押すたびに針の停止位置が切り替わり、表示ランプが消えている時は一番上、表示ランプがついている時は一番下で止まります。

スピードコントロールレバー

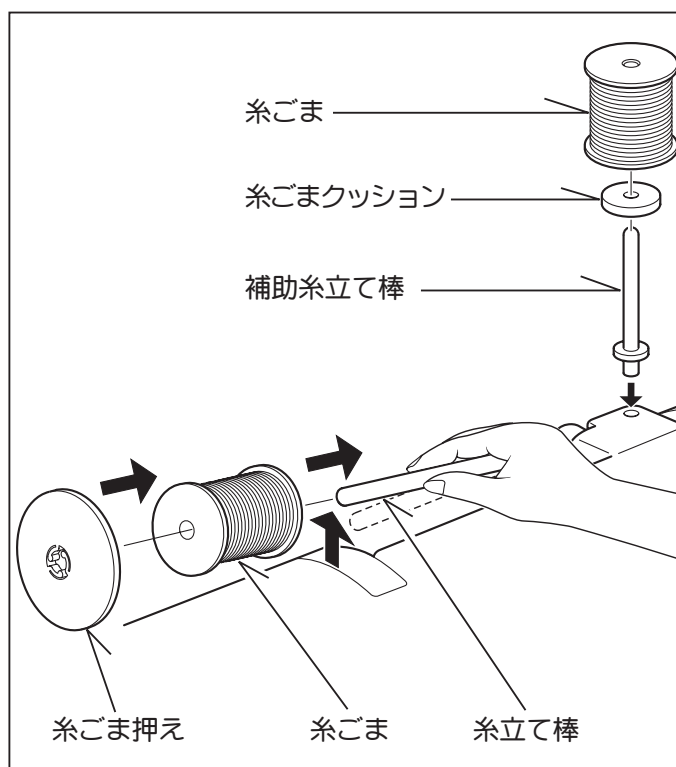
このミシンには電子回路が内蔵されており、自由に速度調整が可能で、レバーを右に動かすとスピードが速くなり、左に動かすとスピードが遅くなります。

- ④ フットコントローラーを使用する場合スピードコントロールレバーの設定位置がフットコントローラーの最高速度になります。



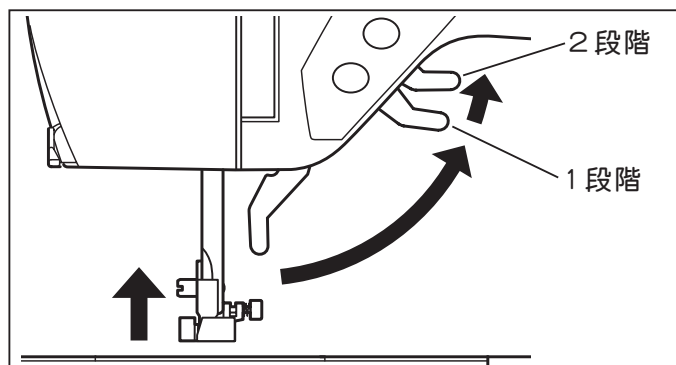
糸ごまのセット

- 1 糸立て棒を手で少し上に向けてください。
- 2 糸立て棒に糸ごまを差し込み、糸ごま押えをかぶせます。
- 3 予備の糸を使用するときには、補助糸立て棒を使用します。



押え上げ

- 1 縫うときは、押え上げを下げておきます。
- 2 押え上げは2段階です。2段階目に押え上げを上げる時は、手で支えながらさらに持ち上げます。



押え圧力の調整

押え圧力調整ダイヤル

1 ダイヤルの調整は、押え上げを上げてから行なってください。

2 押え圧力調整ダイヤルの目盛りの数字が大きくなる程、押え圧力は強くなります。
押え圧力の強さは布の厚さや枚数によって異なります。

*通常は「3」の位置が適当です。

*薄物の布地の場合

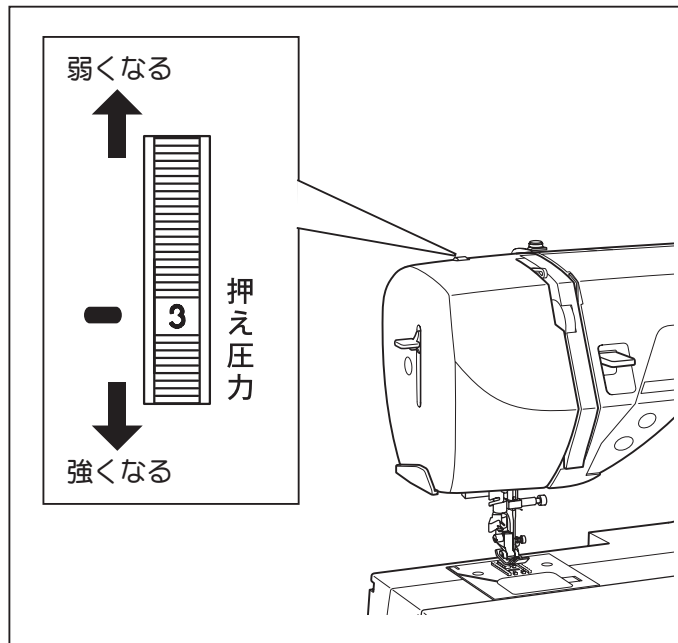
ダイヤルを「2」にセットしてください。

*伸縮性のある布地の場合

ダイヤルを「2」にセットしてください。

*厚物の布地の場合、または数枚重ねる場合

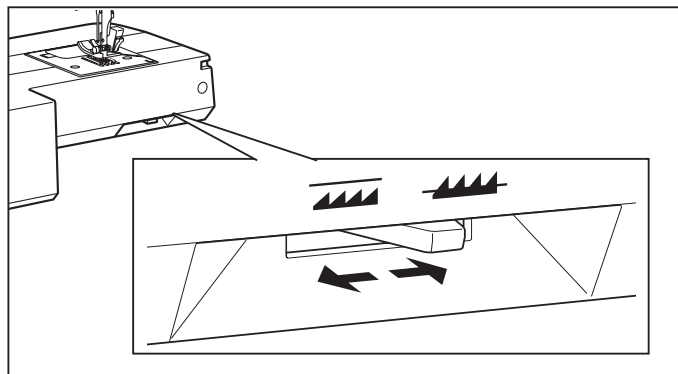
ダイヤルを「4」にセットしてください。



送り歯調節レバー

このレバーで送り歯を下げると、手で自由に布を送れますので、つくろい縫い、自由刺しゅうに便利です。

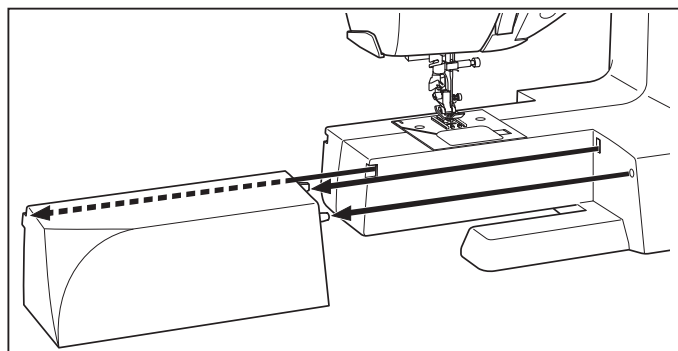
⑧ レバーを右に押し、プーリーを回すと送り歯が上がってきます。



フリーアーム（筒縫い）

このミシンは、補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。

補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、所定の位置に差し込みます。

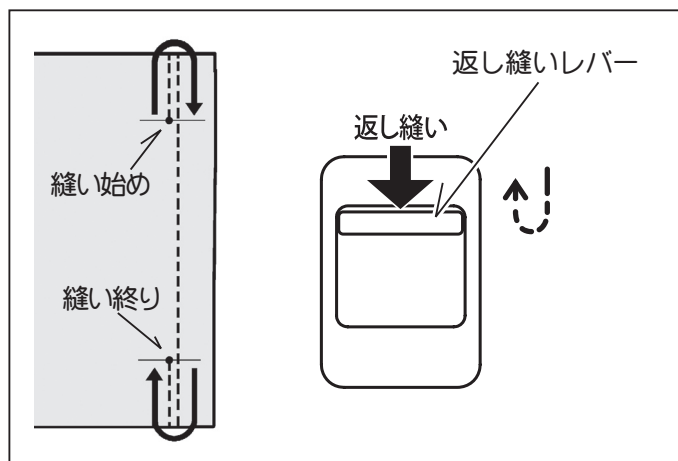


返し縫いレバー

縫い始めと縫い終わりに3～5針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

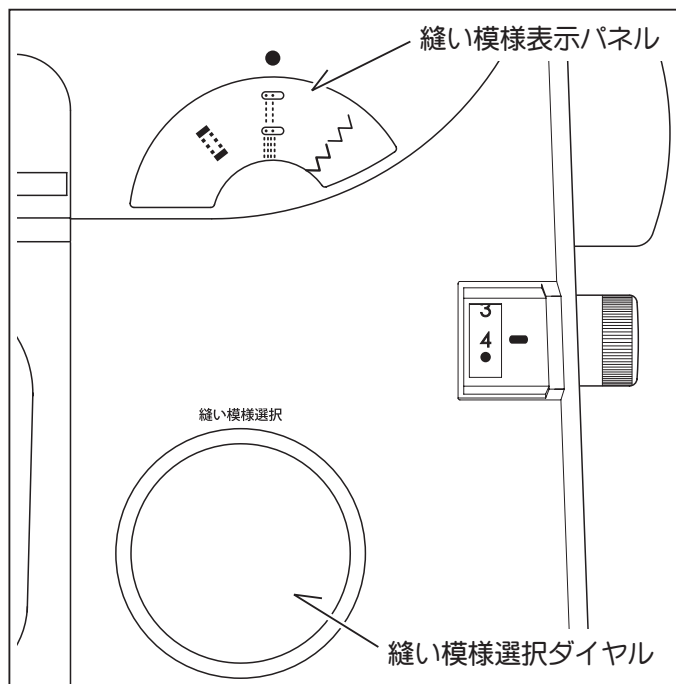
レバーを押し下げている間、最低速で返し縫いをします。レバーをはなすとミシンは止まります。

⑧ 電源スイッチが「ON」のとき、このレバーを押すとミシンが動きますので、返し縫い以外はさわらないでください。



縫い模様表示パネル

模様選択は窓に表示されるので、縫い模様選択ダイヤルを回すだけで希望の模様が選択できます。



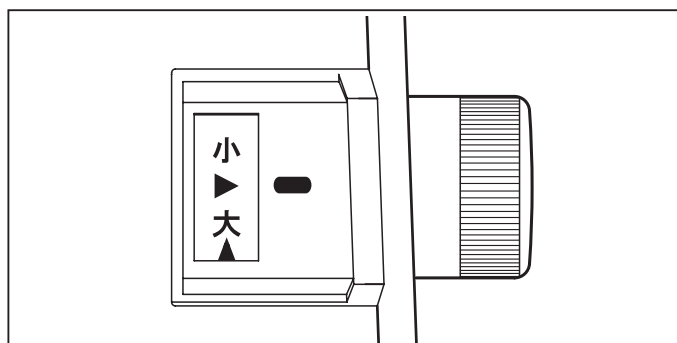
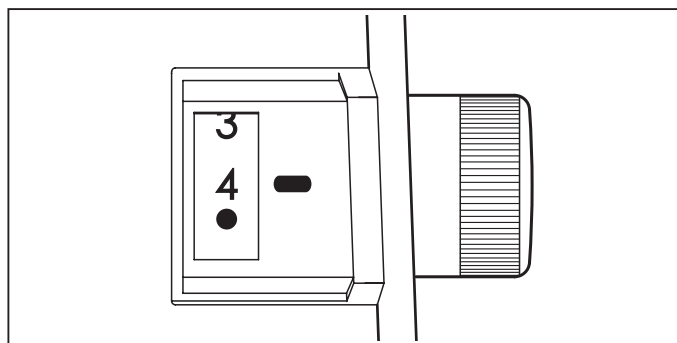
ぬい目長さ・スーパー切換えダイヤル

ぬい目長さ

縫い目は数字が大きくなれば長くなります。数字を ● に合わせます。

スーパー切換え

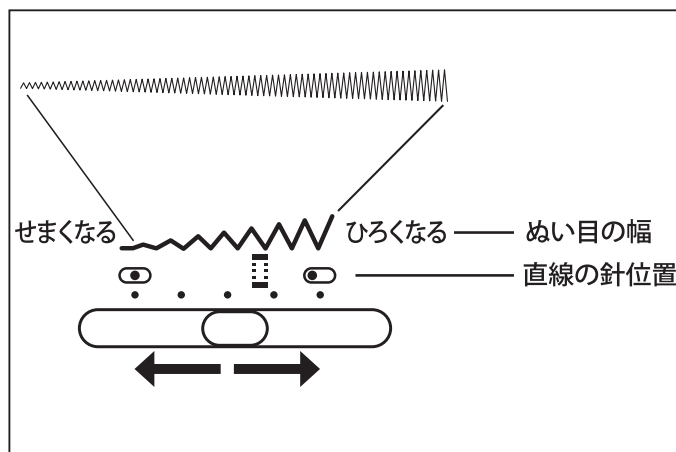
スーパー模様を縫うときは ▶ 印を ● に合わせます。



ぬい幅・基線切換えレバー

ぬい幅を調整できます。

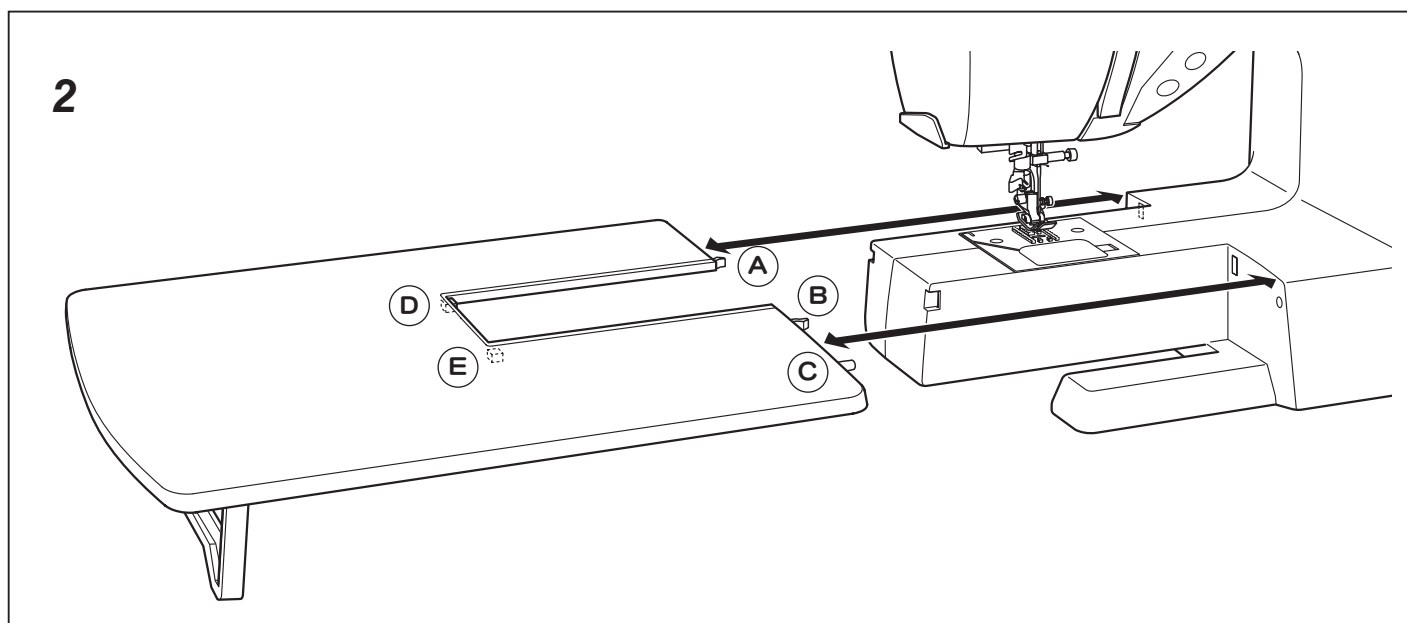
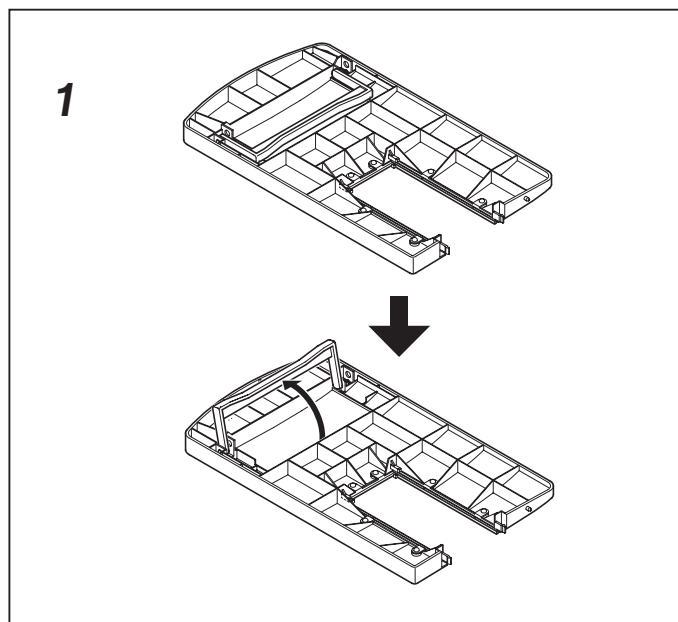
直線縫いのときは、左基線、中基線の2箇所から選択でき、端縫い、カーブ縫い、細かい部分など布送りしにくいところに大変便利です。





大型補助テーブルの使いかた

- 1** 大型補助テーブル脚を矢印の方向に立て、ミシンにセットします。
- 2** 大型補助テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、案内ピン（A B C D E）を所定の位置に差し込みます。

大型補助テーブルを左に引っぱって外すとフリーアーム型になります。



下糸の巻き方

 注意	使用するポビンについて 右記の寸法のプラスチック製ポビン を使用してください。 金属製ポビンは使用しないでください。	直径：20.5ミリ  高さ：11.5ミリ 材質：プラスチック

※ 下糸を巻く前に、押え上げを下げてください。

1 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えをかぶせます。

糸を右手で保持しながら、糸案内A、下糸案内B、下糸巻き案内Cを經由して糸ごまから糸を引きます。

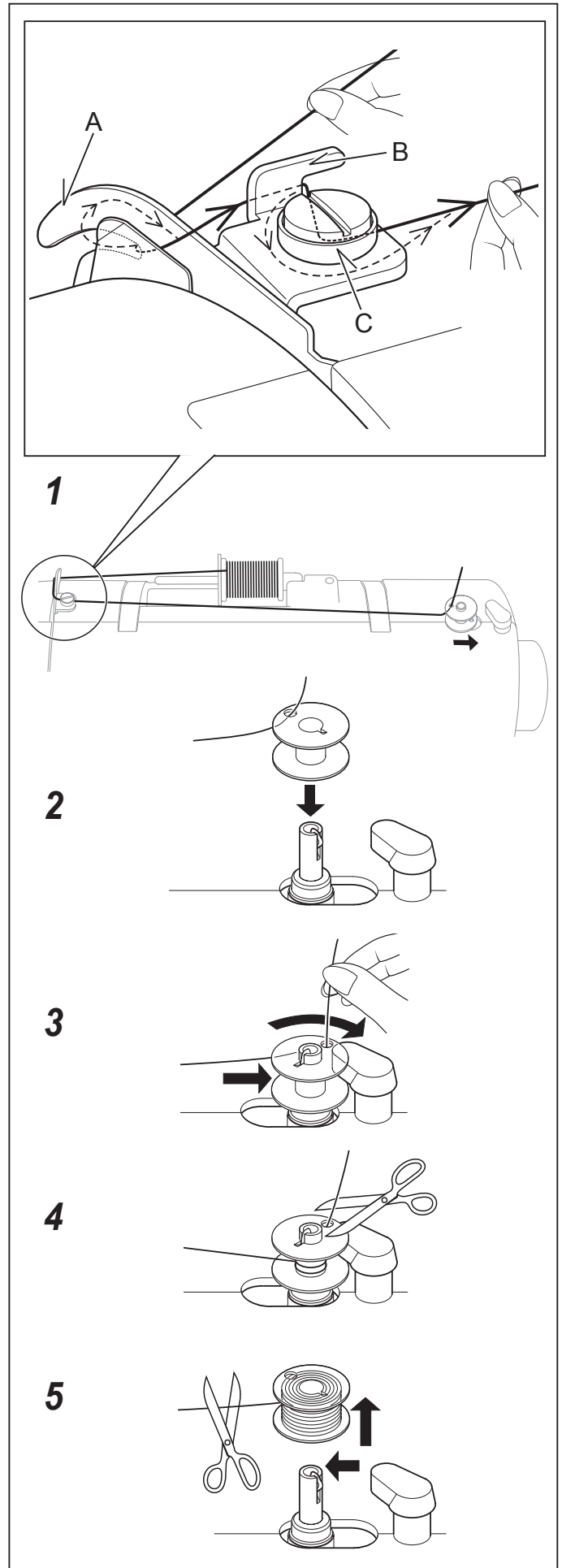
2 ポビンの穴に糸を通し、ポビンを下糸巻き軸にはめこみます。

3 糸の端を持ち、ポビンをカチッと音がするまで右に押しします。スピードコントロールレバーでスピードを調整し、スタート・ストップスイッチを押して糸を巻きます。

4 ポビンが数回転したらいったん止め、巻き始めの糸を切ったあと、再度スタート・ストップスイッチを押して糸を巻き続けます。

5 下糸が一杯になってポビンの回転が止まったら、すぐにスタート・ストップスイッチを押してミシンを止め、糸を切ってください。

下糸巻き軸を左にもどし、ポビンを取り出してください。



ボビンのセット

- 1 プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。
- 2 かまカバー開放レバーを右に押して、かまカバーをはずします。
- 3 糸の端を矢印の方向に出してボビンを入れます。



注意

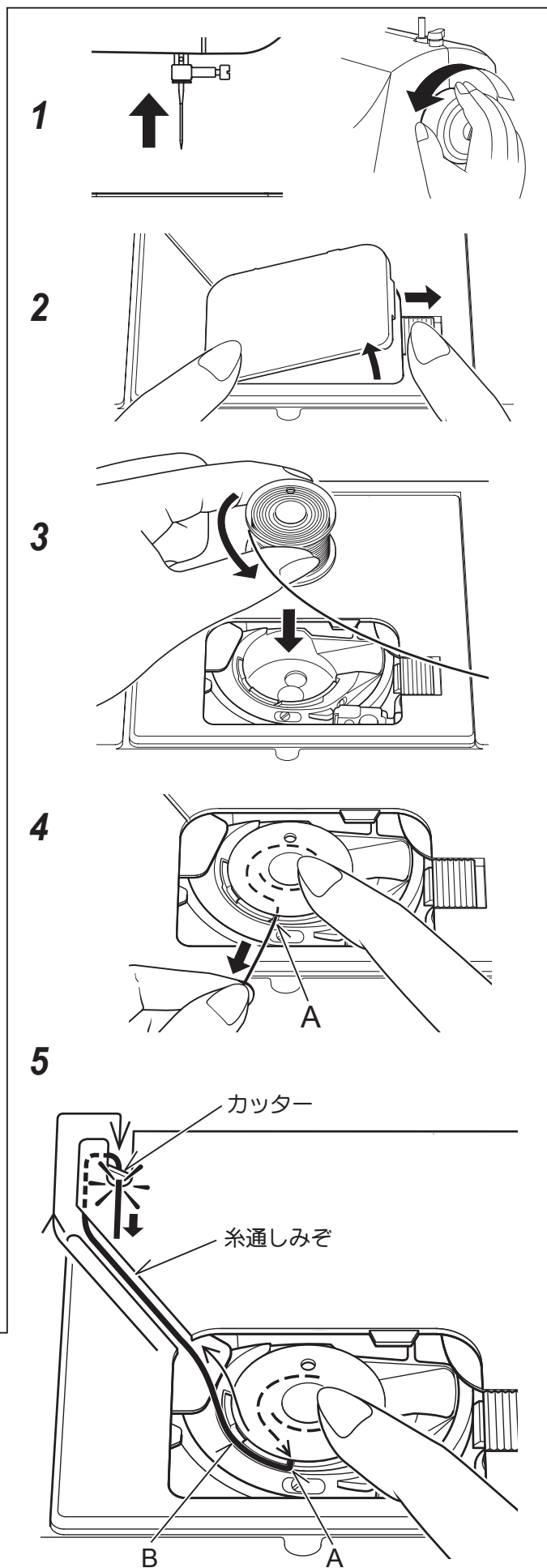
ボビンから糸の出る方向が正しくないと、針折れや糸調子不良の原因となりますので、必ず図のように正しい向きにセットしてください。

- 4 ボビンを指で押さえながら、糸を手前のみぞAに掛け、左に引きます。

- 5 みぞBの方向に糸を引き、針板の糸通しみぞに沿って糸を通し、手前に引いて、カッターで糸を切ります。

注：下糸を引き上げることなく縫い始められます。

- 6 かまカバーを取り付けます。



針と糸と布の使い方

- HA×1家庭用ミシン針を使用してください。
- 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。
- 布地に適した針と糸を使用してください。
- 縫いにくい布地の縫い方は22ページを参照ください。
- 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。

布 地	糸 (番手が大きいほど細くなります)	針 (番手が大きいほど太くなります)
薄物地：合織布（アセテート）、絹地など アドバイス：縫いしわを防止するには縫目ピッチ2～3ミリをおすすめします。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 80～100番	9～11番
普通地：木綿地（ブロード・キャラコ・シーティングなど）、 毛織物（フラノ・フェルトなど）、 合織布（ギャバジンなど）、絹地 アドバイス：穴のあいているレースを縫う場合、布の下に紙を敷いてください。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 50～80番	11～14番
厚物地：木綿地（デニム・タオルなど）、 毛織物（ツイード・フェルトなど）、 合織布（レーヨンなどのカーテン地）	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 30～60番 アドバイス：30番糸を使用される場合、16番針とします。30番以上の太い糸（例えば、20番などの糸）の使用は控えてください。	14～16番
伸縮地：ジャージー、トリコット、メリヤス、 ニット地などの伸縮性のある布地	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 50～80番	11～14番 アドバイス：ニット針の使用をおすすめします。

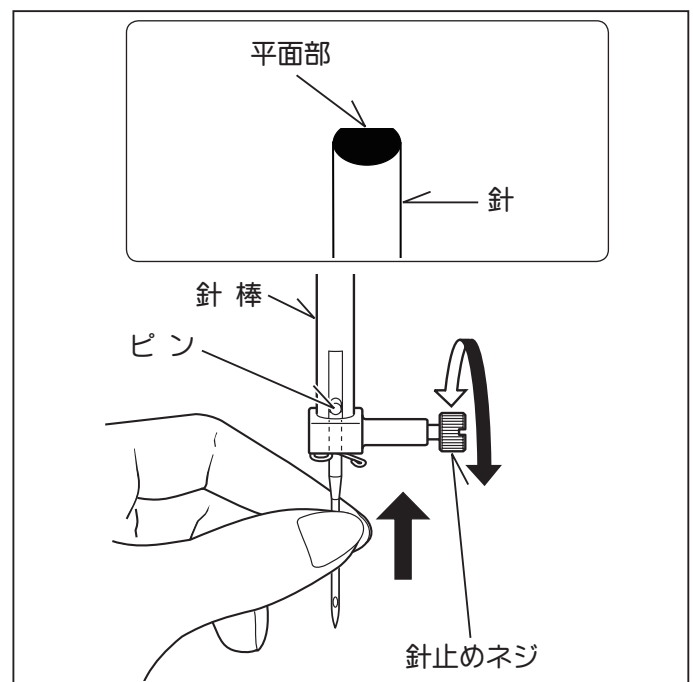
* ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは14番～16番をおすすめします。
アドバイス：針は太め、上糸圧力は弱めにし、下糸は少なめに巻いてください。

針のとりかえ方



針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。

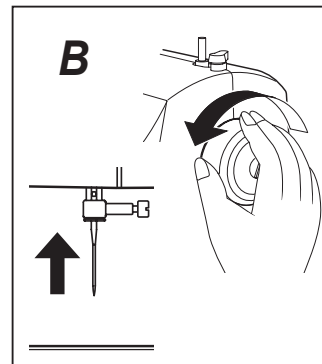
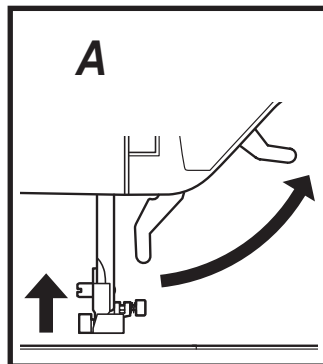
- 1 プーリーを手前に回し、針を最上点にあげます。
- 2 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針をはずします。
- 3 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差し込みます。
- 4 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。



上糸のかけ方

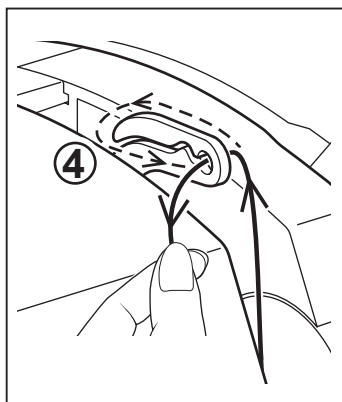
A 上糸をかける前に、必ず押え上げを上げます。

注意 押え上げを上げないで上糸をかけると、内蔵されている糸調子皿に糸が通らない為、糸調子が取れず、正常な縫いが出来ません（下記ヒント参照）。

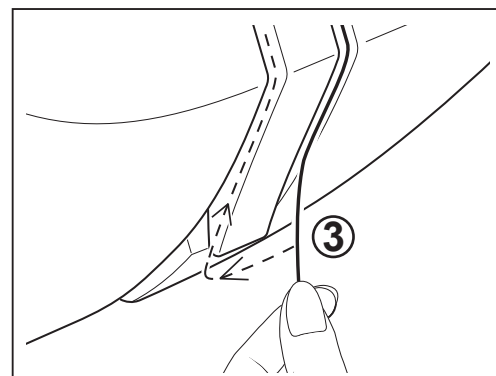
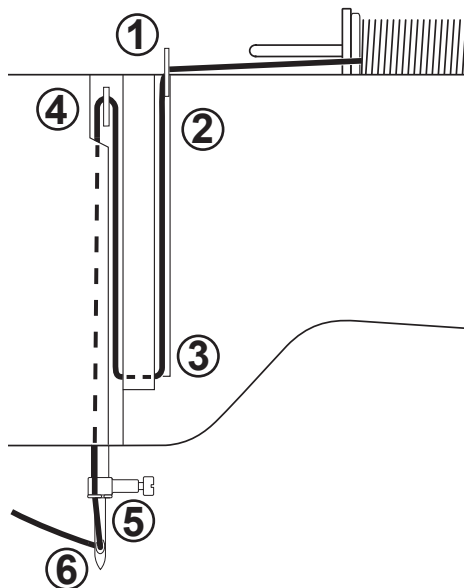
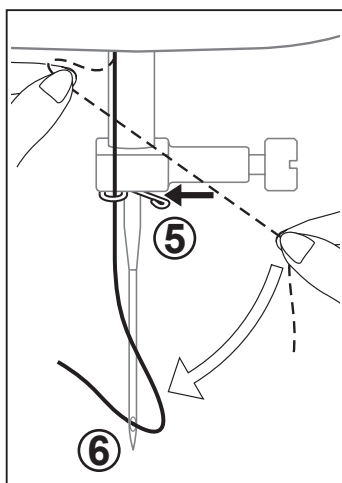
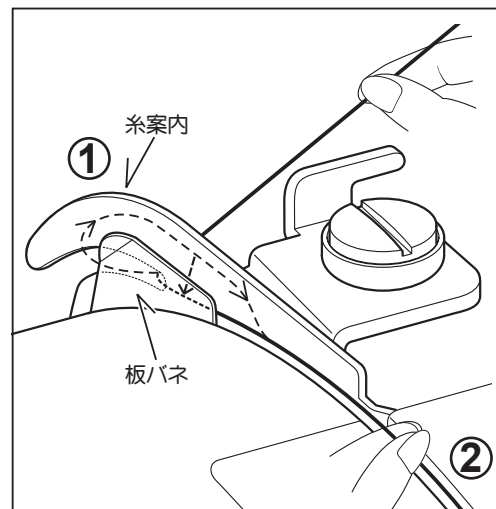


B プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。

C 図の番号順に糸をかけます。



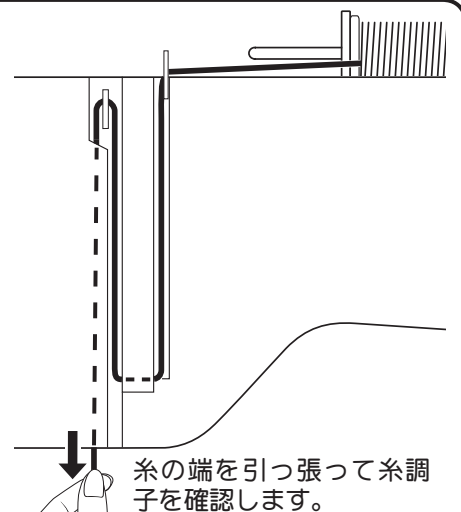
- 糸を右手で保持しながら糸案内①に糸をかけ、板バネの間にはさみ、みぞ②にそって下へ引っばります。
- つの③の内側にUターンします。
- 天びん④へ右から左に糸を入れます。
- 図のように糸を保持して、糸かけ⑤に糸をかけます。
- 針穴⑥に前から後ろへ糸を通します。



上糸かけのヒント

内蔵されている糸調子皿に正しく糸が通っているか確認する時は、下記の要領で行ってください。

1. まず、押え上げを下げます。
2. 上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が強くなっているか確認します。
3. 次にダイヤルを数字の小さい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が弱くなっているか確認します。
4. 確認が終わったら、ダイヤルを元の位置（標準）に戻します。



自動糸通し器の使い方



自動糸通し器使用時は、故障やけがのおそれがありますので、ミシンを誤って作動させないようにご注意ください。

注意1：

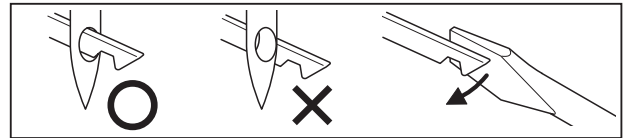
- * 自動糸通し器を使用の際は、糸通しをスムーズに行えるように、直線縫い(中基線)にセットしておくことをお勧めします。
- * 細い針に太い糸を使うと糸通しが出来ません。
- * ミシンが作動中に糸通しレバーを下げないでください。糸通しカギが壊れる恐れがあります。

注意2：

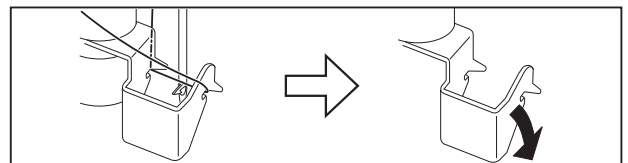
この糸通し器は#14番針が標準とされておりますので、それより細い針や糸の種類により針に糸が通りにくいことがあります。その場合は、針棒糸案内に糸を掛け、手で針に糸を通してください。

お役立ち情報

- * 長期間ミシンを使用していない場合の使用時はフェルトクッションにミシン油を1滴さしてください。
- * 糸通しカギが針穴から離れた際は、小さなねじ回しでカギの位置を調節してください。



- * 糸通しカギに糸が引っかからない場合は、糸ガイドをほんの少し曲げて上下の位置を調整してください。



* 糸通しの前に押え上げを上げ、針を一番上にします。

1. 説明書15ページ「上糸のかけ方」(①、②、③、④)の糸掛けをします。針棒糸案内に糸を掛け、10 cm以上手前に引き出します。

2. 糸通しガイド(AとB)に糸を掛けます。

3. 糸を引っ張らず、糸切り装置に糸を掛け、切ってください。

* 糸を強い力で引っ張りながら切ると、糸通し後、針穴から糸が外れる場合があります。

4. 糸通しガイドが回転し、止まるまで、糸通しレバーを一番下まで押し下げます。

* 糸通しレバーを下げる場合、レバーの根元を指で押さえるようにしてください。

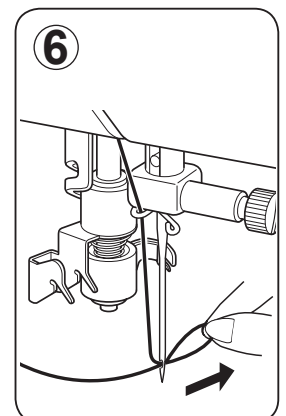
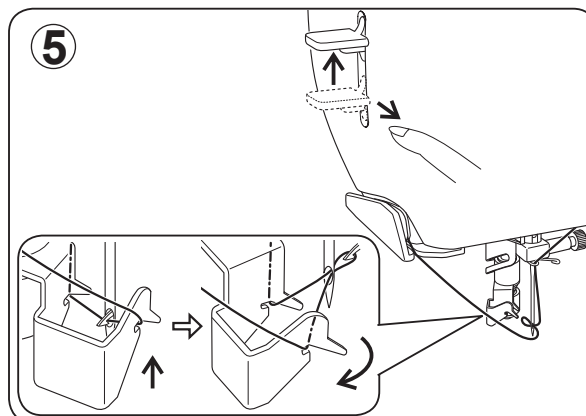
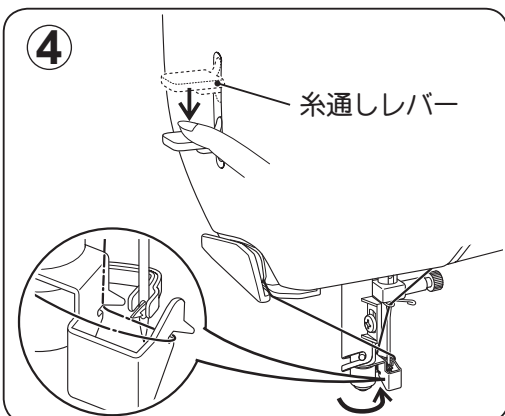
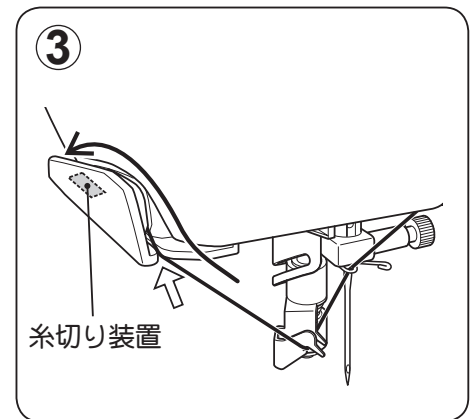
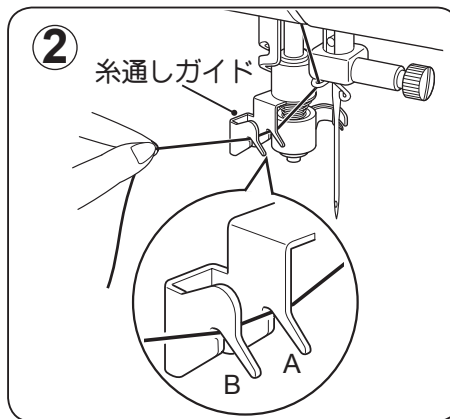
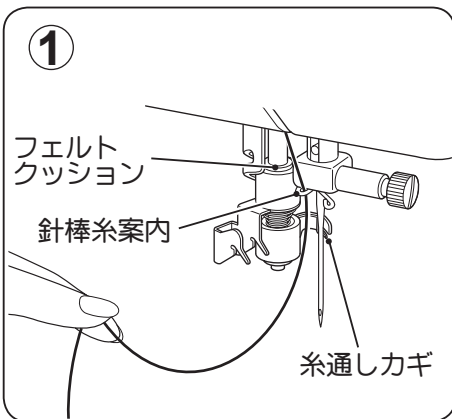
* 糸通しガイドが生地等に触れないようにしてください。

5. 糸通しレバーを離すと針に自動的に糸が掛かります。

* 糸通しガイドが元の位置に戻らない場合は糸通しガイドを元に戻る方向に軽く触ってください。

6. 輪になった糸を向こう側に引き出してください。

* 糸が正しく掛からなかった場合は、手順1からやり直してください。



下糸を余分に引き出しておきたい場合

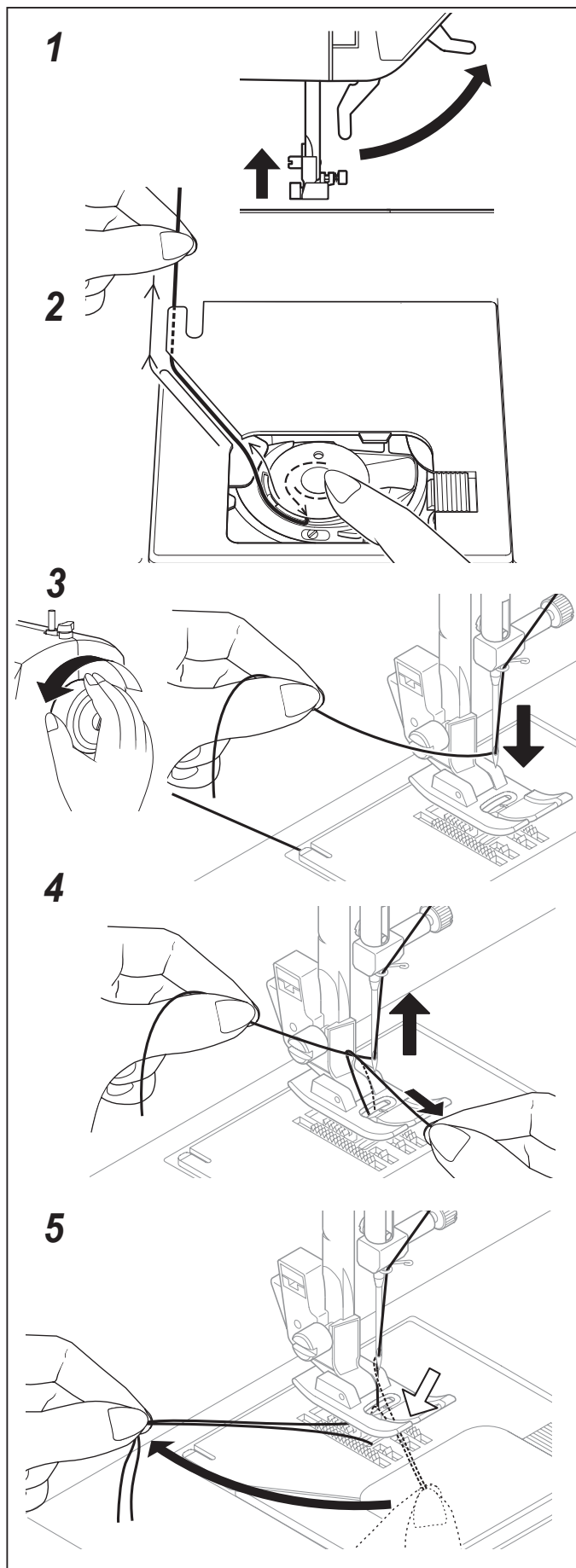
縫い始める前に下糸を余分に引き出しておきたい時は、下記の手順に従って糸を引き出します。

- 1** 押え上げを上げてください。
- 2** 下糸を矢印のように通します。
- 3** 上糸を軽く左手で持ち、プーリーを手前に完全に一回転させてください。
- 4** 左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついてあがります。
下糸を右手で手前に引き出してください。
- 5** 両糸をそろえて押えのみぞ（矢印）に入れ、押え金の下を通して後ろへ引き、糸を10cmほど残しておいてください。

= チェックポイント =

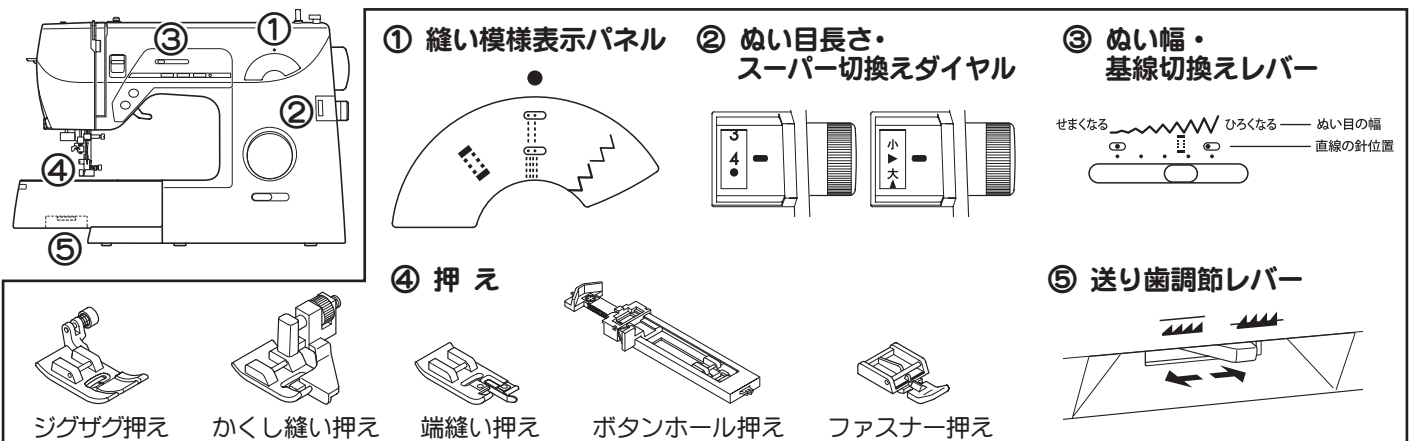
図の手順で下糸が引き上げられない場合は、次の点をチェックしてください。

1. 針に糸が通っていますか？
2. 糸が針の回りにからまっていませんか？
3. ホビンケースから糸が10cmほど出ていますか？
4. ホビンケースから出た糸がもつれていませんか？
5. ホビンケースに糸が正しく通っていますか？



2. さあ縫ってみましょう……

ミシンのセットのしかた




縫い模様	①	②	③	④	⑤	
ボタンホール				ボタンホール押え		
直線縫い	(中基線)	1 - 4		ジグザグ押え	↓	
	(左基線)					
ジグザグ縫い		0.5 - 4	最小 - 最大			
まつり縫い		1 - 4	中間 - 最大	かくし縫い押え		
点線ジグザグ縫い		0.5 - 4		ジグザグ押え		
シェル縫い		1 - 4		かくし縫い押え		
伸縮まつり縫い						
つき合わせ縫い		0.5 - 1				
直線伸縮縫い	(中基線)	↓		ジグザグ押え		
	(左基線)					
ジグザグ伸縮縫い			最小 - 最大			
オーバーロック縫い(右)			中間 - 最大			
スモッキング縫い			中間 - 最大	ジグザグ押え		
オーバーロック縫い(左)				端縫い押え		
エラスチックオーバーロック縫い			中間 - 最大	ジグザグ押え		
フィッシュボーン縫い						
スーパー飾り縫い						
ファスナーつけ			1 - 4		ファスナー押え	
仮縫い (しつけ縫い)	(中基線)		↓		ジグザグ押え	↓
	(左基線)					

直線縫い

■ 直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

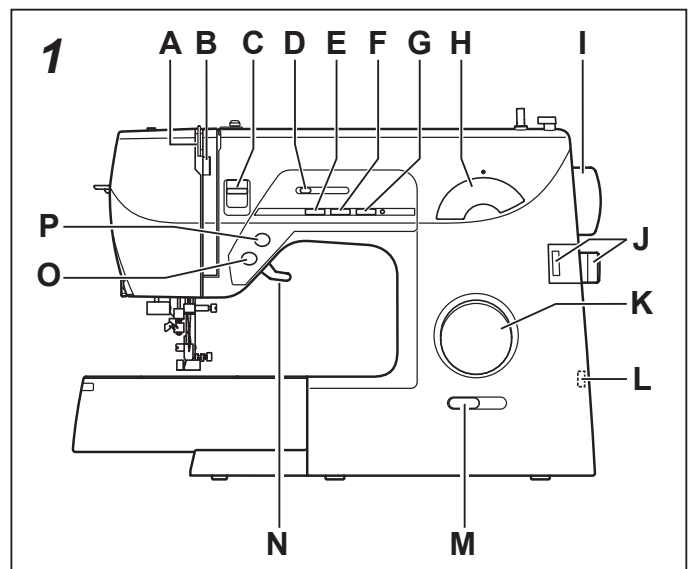
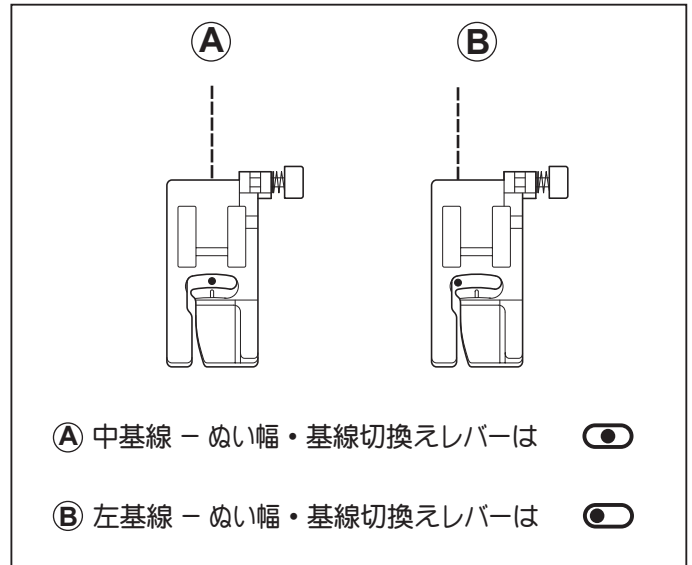
1 ミシンをセットしましょう。

縫い模様「 」 縫い目長さ「1~4」

上糸調節ダイヤル「標準」

プーリーを手前に回して、天びんをいちばん上まで上げます。

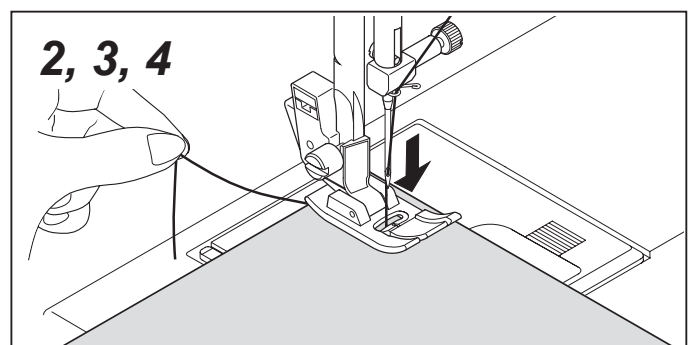
- A. 天びん
- B. 上糸調子ダイヤル
- C. 返し縫いレバー
- D. ぬい幅・基線切換えレバー
- E. 一針縫いスイッチ
- F. 半針縫いスイッチ
- G. 上下選択スイッチ
- H. 縫い模様表示パネル
- I. プーリー
- J. ぬい目長さ・スーパー切換えダイヤル
- K. 縫い模様選択ダイヤル
- L. 電源スイッチ
- M. スピードコントロールレバー
- N. 押え上げ
- O. スタート・ストップスイッチ
- P. ゆっくりすすむスイッチ



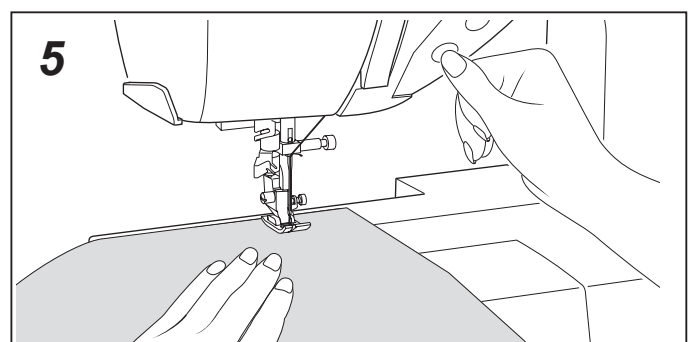
2 上糸を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。

3 布を押えの下に入れ、押えを下げます。

4 プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。



5 スタート・ストップスイッチを押して縫い始めます。「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールレバーを右に動かしてください。縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く導いてください。



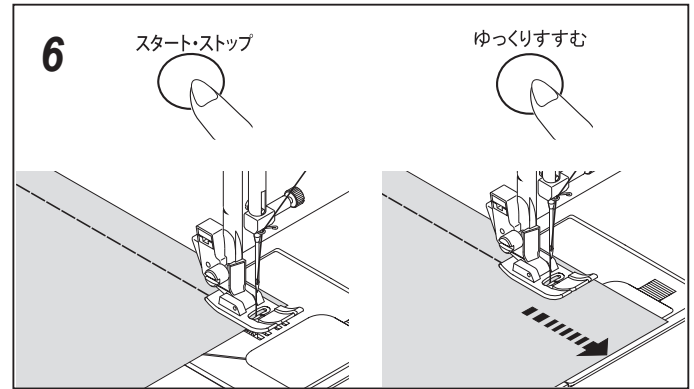
6 ミシンの止めかた

スタート・ストップスイッチ使用時

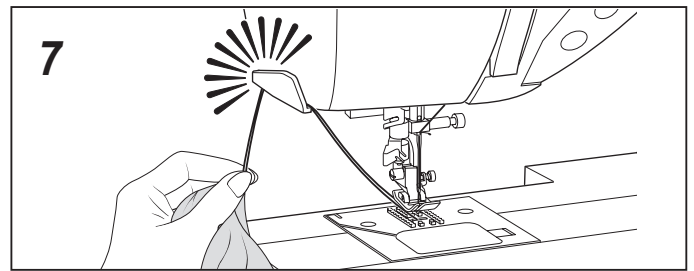
布はしまで来たら、スタート・ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

ゆっくりすすむスイッチ使用時

布はしに近づいたら、ゆっくりすすむスイッチを押して、スピードを落として縫い、縫い終わりでスイッチをはずすと、ミシンは止まります。

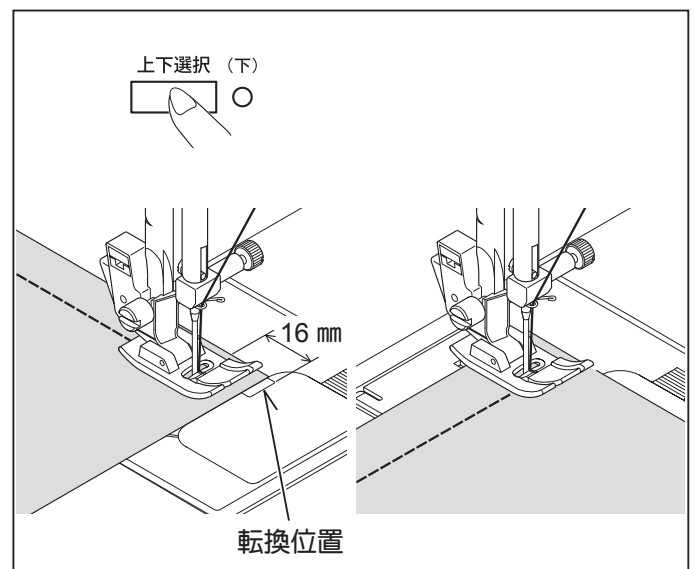


- 7 針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。



■ 縫い方向の変え方 (布端から 16 mm で縫う場合)

- 1 縫う前に針棒上下選択スイッチを押して、下(停止)を選択します。
表示ランプが点灯します。
- 2 布の角が針板上の「転換位置」にきたらミシンを止めます。針が布に突き刺さった状態で止まります。
- 3 押え上げを上げ、布地を回し、布の下端を 16 mm の線に合わせます。
- 4 押えを下げても再び縫い始めます。

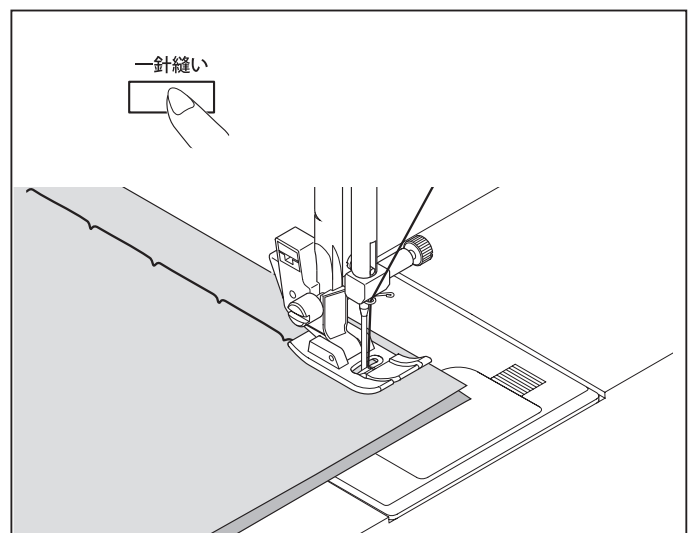


■ 仮縫い (しつけ縫い)

(注) 仮縫い(しつけ縫い)の前に、送り歯調節レバー操作で送り歯を下げます。(9ページ参照)

- 1 押え圧力調整ダイヤルの目盛りを小さくします。
- 2 一針縫いスイッチを押して、一針縫いをします。
- 3 布地を張りながら移動します。
- 4 再び一針縫いスイッチを押します。

(注) 仮縫いが終わりましたら、送り歯調節レバーと押え圧力調整ダイヤルは元に戻してください。



■ ファスナーつけ

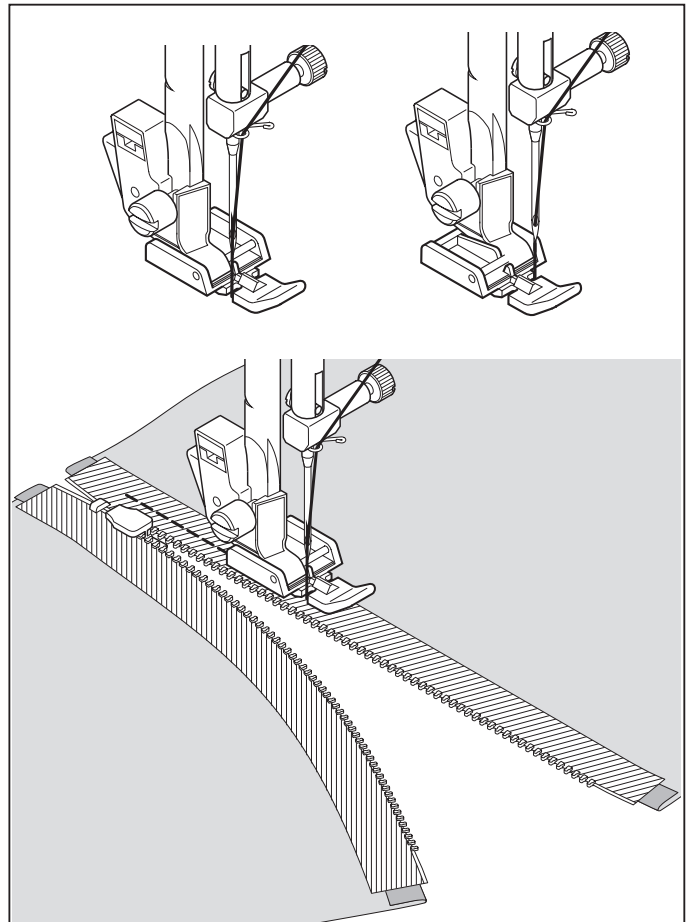
ミシンのセット

ぬい模様「直線縫い・中基線」

押え「ファスナー押え」

ファスナーの右側を縫うときは、押えホルダーを押えの左側のピンに取付けて縫います。

左側を縫うときは、押えホルダーを押えの右側のピンに取付けて縫います。



注意

ファスナー押え使用中は、縫い模様選択ダイヤルをまわさないでください。針が押えに当たって危険です。

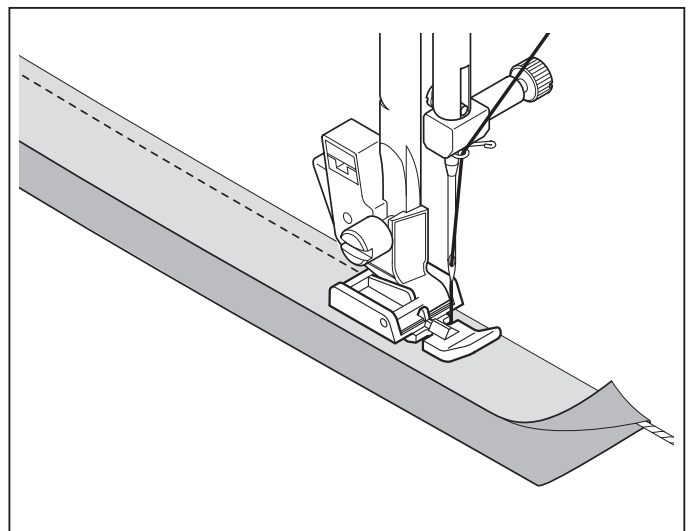
■ パイピング

ミシンのセット

ぬい模様「直線縫い・中基線」

押え「ファスナー押え」

バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、押えホルダーをファスナー押えの右側に取り付けて図のように縫うと、パイピングテープを作ることができます。



■ 縫いにくい布地の縫い方

段縫い

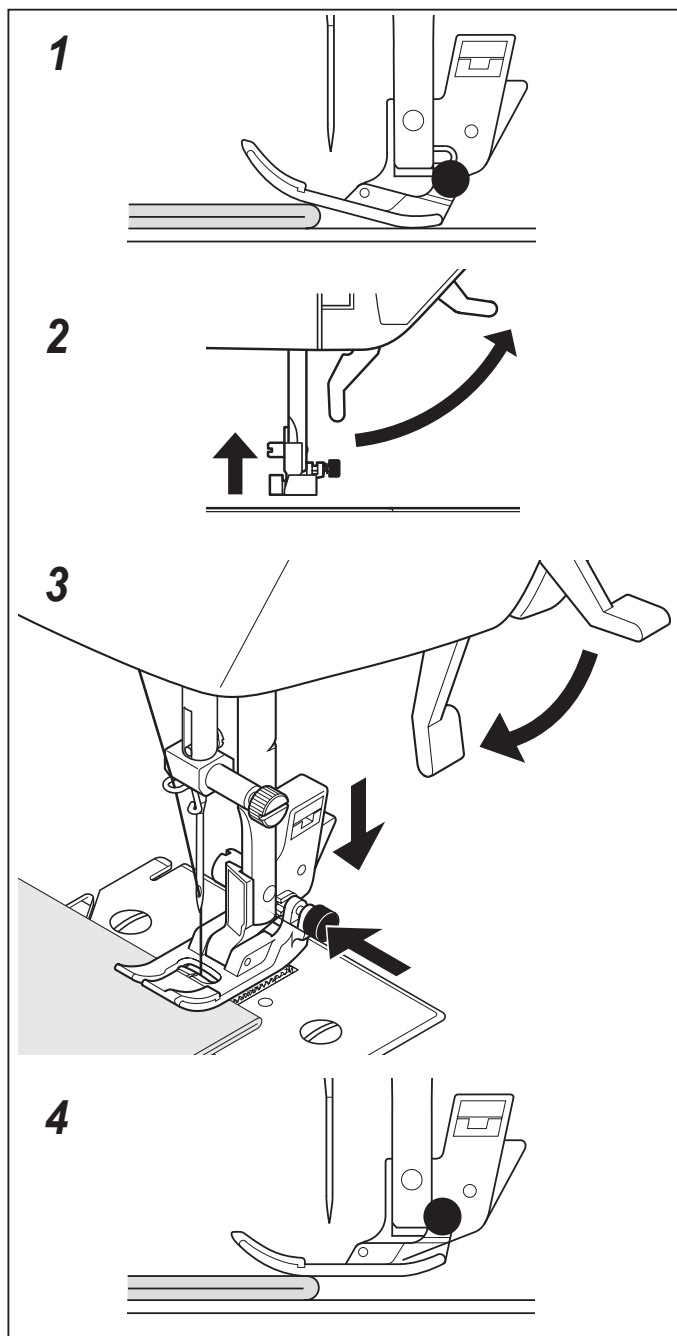
- 1 布送りがスムーズでない場合や、図のように重なった厚地の布を縫う場合は、押えの右側の黒いボタンを使用します。
- 2 押え上げを上げます。
- 3 押えの黒いボタンを左に押したまま、押え上げを下げてみます。
- 4 押えが水平になり、布地が送られます。更に縫い進むと、黒いボタンは解放され、元に戻ります。

薄物（レース布、薄物布）

- ※ レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。縫い終わったら、紙を取り除きます。薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。
- ※ 薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っ張りながら縫います。

厚物（タオル布）

- タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 #16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。
- ※ 縫い目長さを「2mm」以上にしてください。

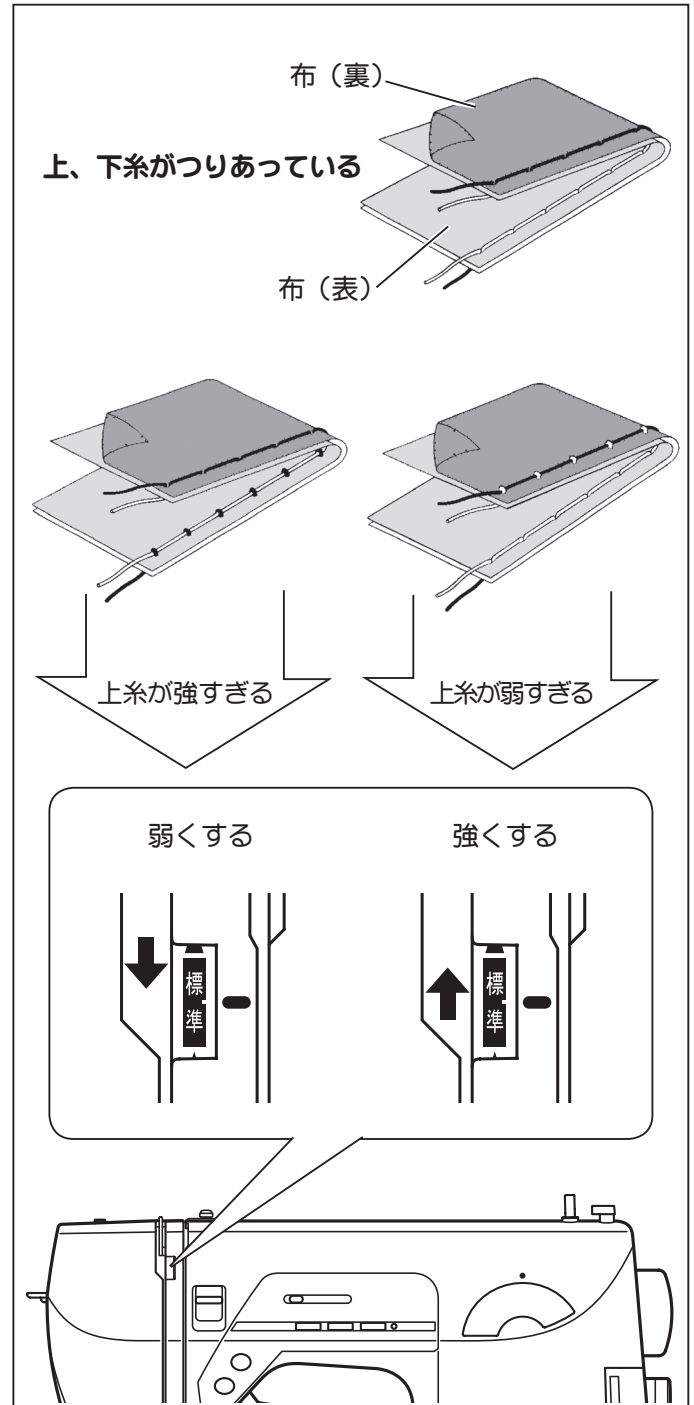


■ 上糸調子のとり方

直線縫いの場合、上糸と下糸が布の中間で適当な張力をもってからみ合うのが、正常な糸調子です。通常の場合は、「標準」に合わせてください。

上糸が強くて、布の表に下糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回して上糸調子を弱めます。

上糸が弱くて、布の裏に上糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回して上糸調子を強めます。



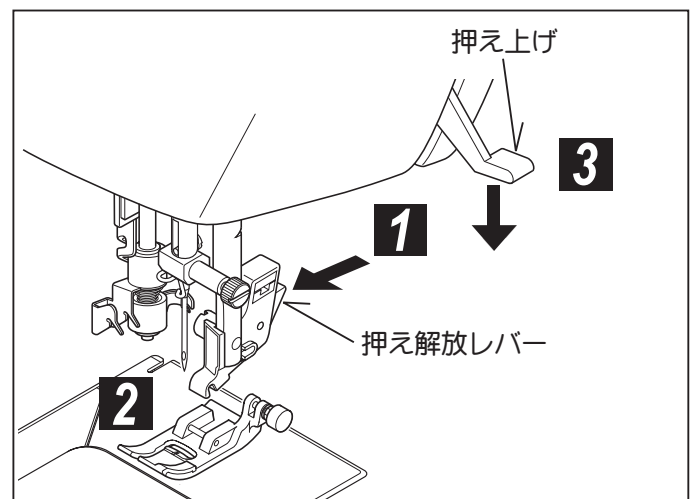
■ 押えのとりかえ方



注意 押えの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

押えと針を上げます。

- 1 押え解放レバーを矢印の方向へ押し、押えがはずれます。
- 2 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
- 3 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。



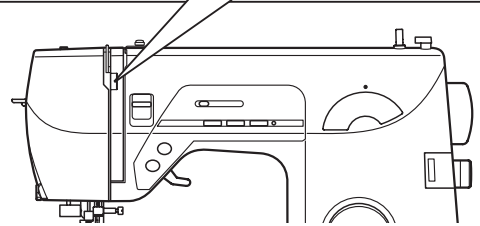
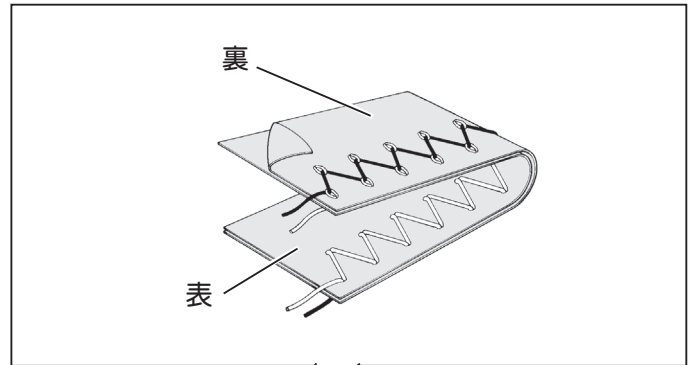
ジグザグ縫い



■ ミシンのセット

押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」

布の裏側に上糸が少し出るのが正しい糸調子です。

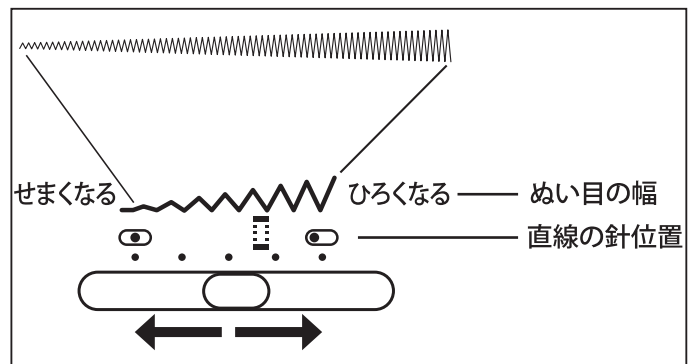


■ ジグザグふり幅

ぬい幅・基線切換えレバーを動かして、お望みのジグザグのぬい幅にセットします。

■ ぬい目長さ

ぬい目長さ・スーパー切換えダイヤルを0.5から4の間にセットします。

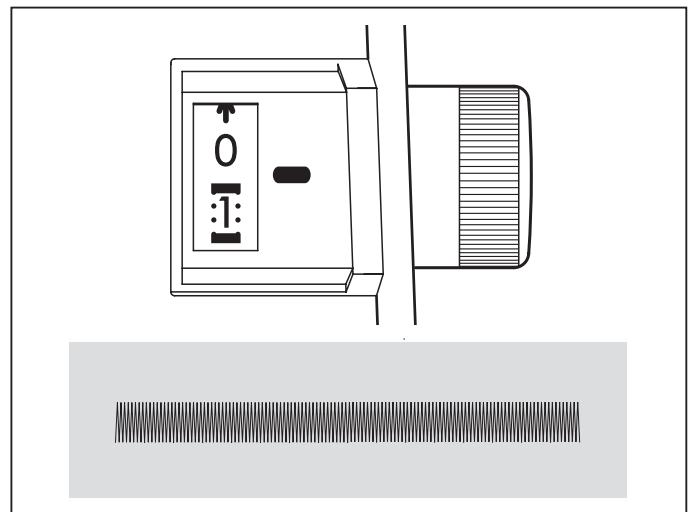


■ サテンステッチ（密着縫い）

ぬい目長さダイヤルを「0.5」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいな縫い目ができます。

アップリケ、刺しゅう縫いなどに使います。

⑧ 布の種類によっては、送り詰りする場合があります。その場合はぬい目長さを少し大きくしてください。



まつり縫い (ブラインドステッチ)



■ ミシンのセット

押え「かくし縫い押え」
上糸調子ダイヤル「標準」



— 普通地に適しています。



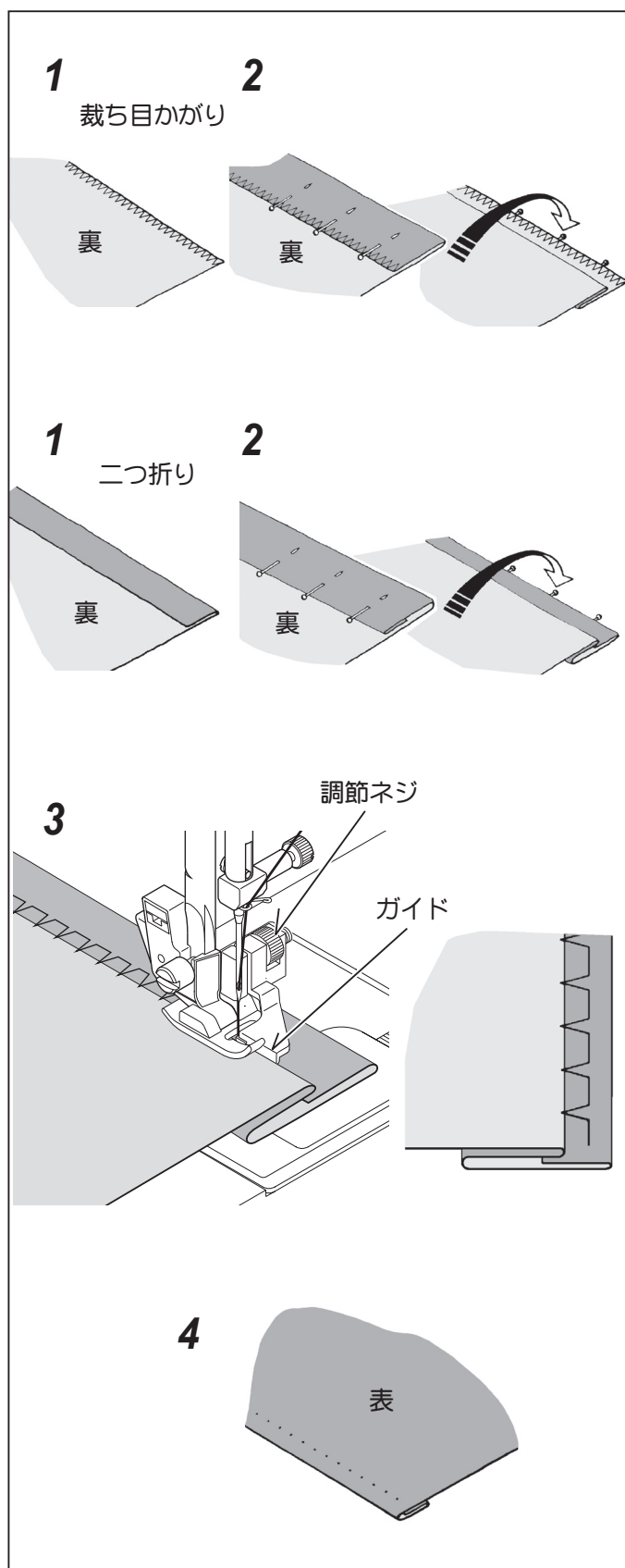
— 伸縮性の布地に適しています。

1 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。

2 出来上り線にそって布を折り、折り山から約7~8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で留めます。待ち針を持って折り返します。

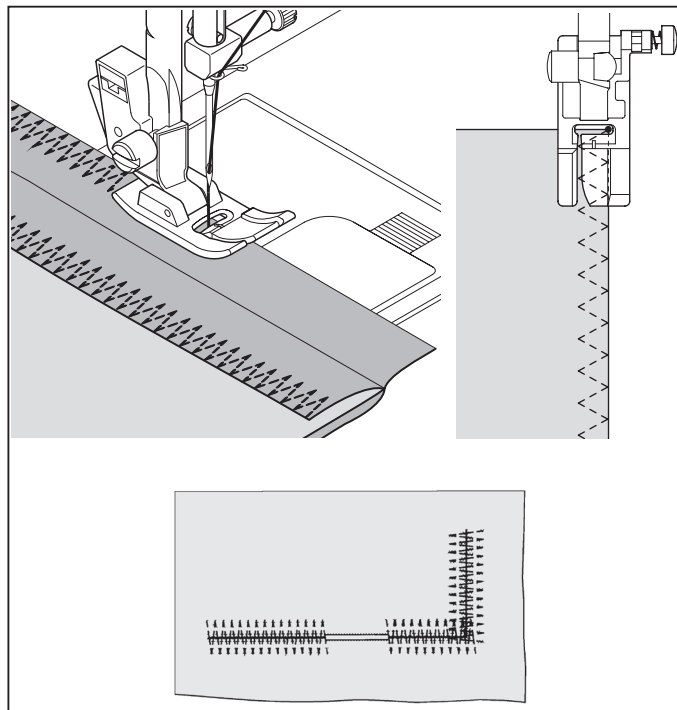
3 布の折り山を押えのガイドにそわす様に布をおき、調節ネジをまわし、針が左に振れたとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。

4 布を表に開くとできあがりです。



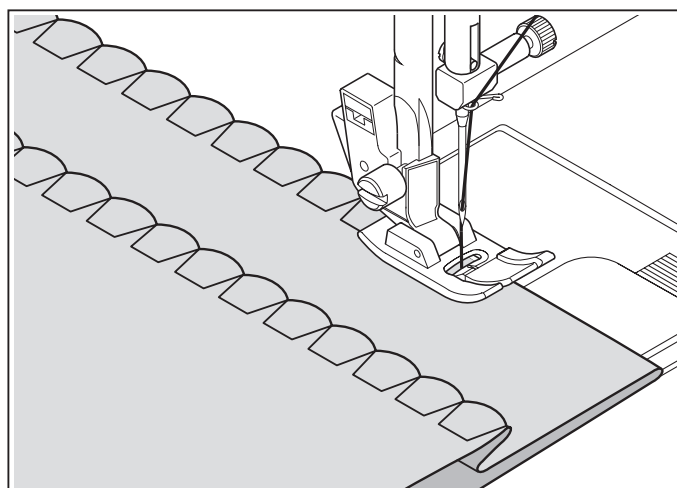
点線ジグザグ縫い

- ミシンのセット
押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- 裁ち目かがり
点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。さまざまな種類の布の裁ち目かがりに使用できます。
- つくろい縫い
布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角は、両側から角の中心に向かって縫います。裂け目の下に布をあてて縫うと丈夫につくろえます。



シェル縫い

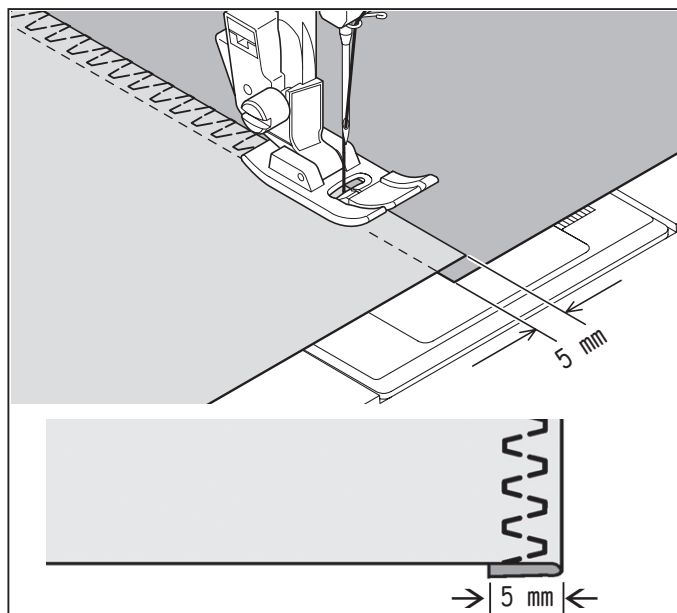
- ミシンのセット
押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- シェル縫いは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。
針が右側に落ちる時、布地にかからないようにして縫ってください。
縫う前に、はぎれを使ってテスト縫いされることをおすすめします。



⑧ 上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。

つき合わせ縫い

- ミシンのセット
押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- 布と布をつき合わせて縫います。
クッション、テーブルセンターなどを作る時に利用できます。



スーパー縫い（ストレッチステッチ）

■ ミシンのセット 押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」

ぬい目長さの調整

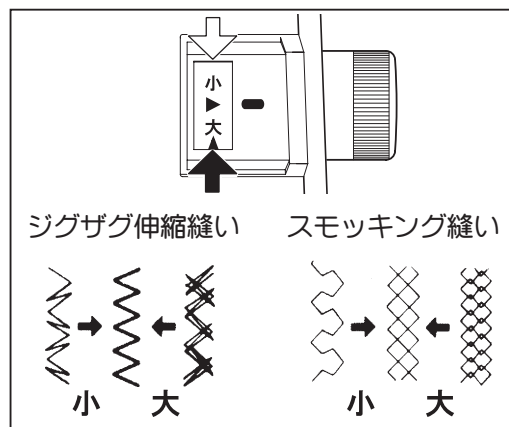
ぬい目長さ・スーパー切換えダイヤルの▶印の位置でバランスの取れた美しい伸縮縫いができます。

模様形状の整え方

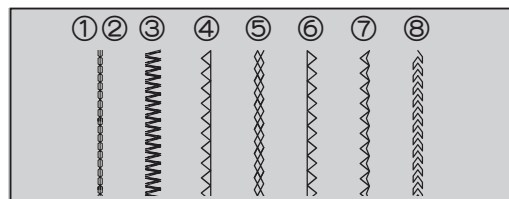
伸縮縫いは、使用される布地によって伸びたり縮んだりすることがありますので 小 ▶ 大 のぬい目バランス調節位置で調整します。（伸びた場合は小、縮んだ場合は大に合わせます。）

伸縮性の生地を縫う場合

薄い伸縮性のある生地やニット地に伸縮縫いを縫う場合は、ニット専用針を使用されると目とびなどを防ぎ、好結果が得られます。



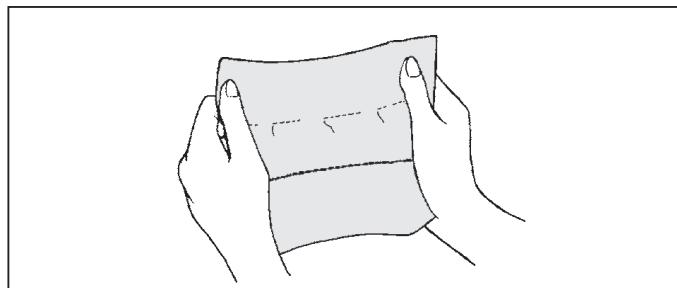
- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 直線伸縮縫い（中基線） | ⑤ スモッキング縫い |
| ② 直線伸縮縫い（左基線） | ⑥ オーバーロック縫い（左） |
| ③ ジグザグ伸縮縫い | ⑦ エラスチックオーバーロック縫い |
| ④ オーバーロック縫い（右） | ⑧ フィッシュボーン縫い |



直線伸縮縫い



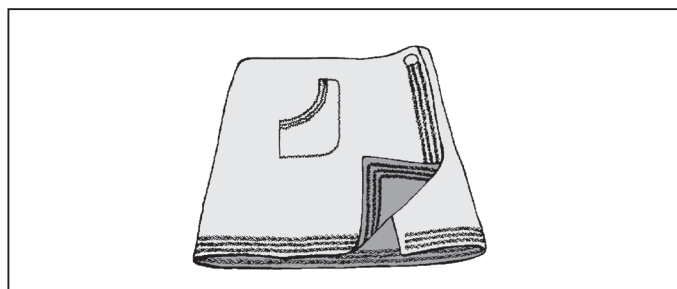
■ 図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。



ジグザグ伸縮縫い



■ 縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。



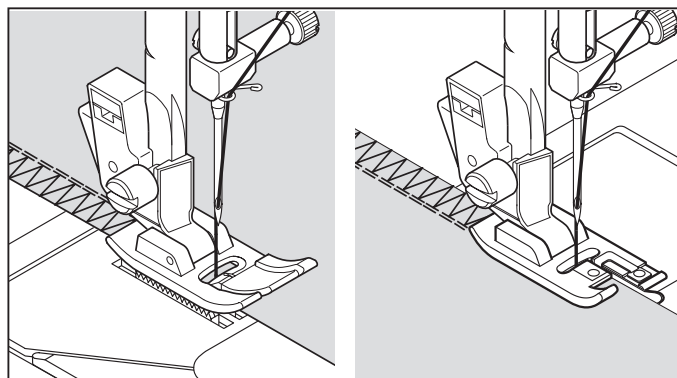
オーバーロック縫い



■ 地縫いと裁ち目かがりを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウス地や綿ジャージ、薄い生地の縫い代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。

針は 14 番以上は使用しないでください。

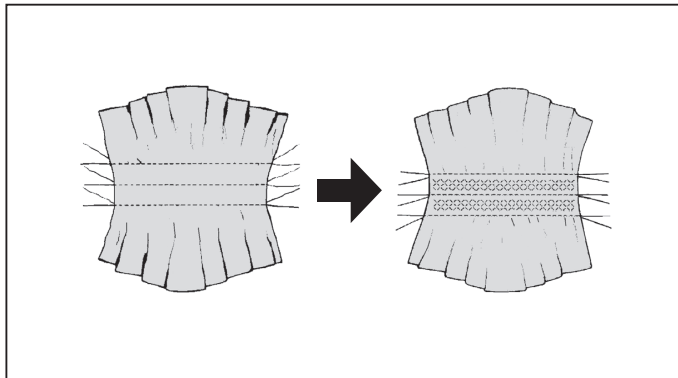
▶— この模様で裁ち目かがりをする時は、端縫い押えの使用をお勧めします。



スモッキング縫い

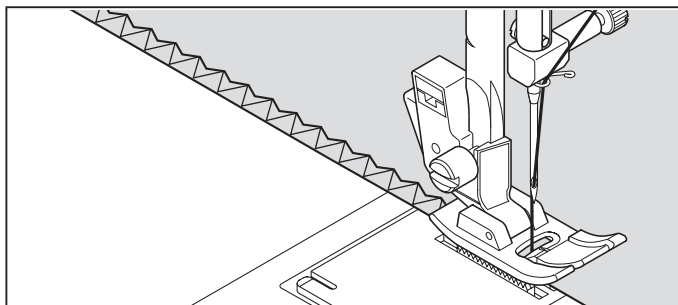
- 1 上糸調子を弱くして、1センチ位の間隔を開けて直線縫いをしてください。
- 2 下糸だけを引っ張ってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
- 3 直線縫いの間をスモッキング縫いします。直線縫いの糸をほどきます。

ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。



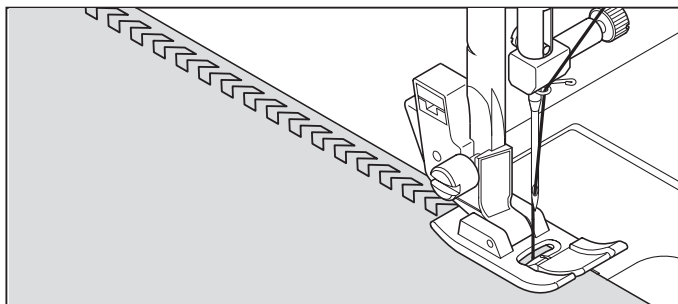
エラスチック オーバーロック縫い

- 地縫いと裁ち目かがりを一度にし、地縫い部分がジグザグ縫いになっていますので、伸縮度の大きい布地に適しています。



フィッシュボーン縫い

- 縁飾りや刺しゅうに適しています。



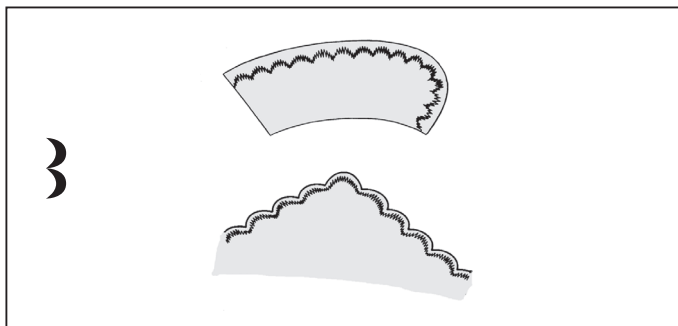
飾り縫い

- ミシンのセット
押え「ジグザグ押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- ※ 使用される布地の端切れで試し縫いをされることをおすすめします。
- ※ 縫い途中に糸がなくなることを避けるためにボビンと糸ごまに十分な糸があることを確認してから縫い始めてください。
- ※ 上糸調子をやや弱めにセットしてください。

■ スカラップ模様

婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

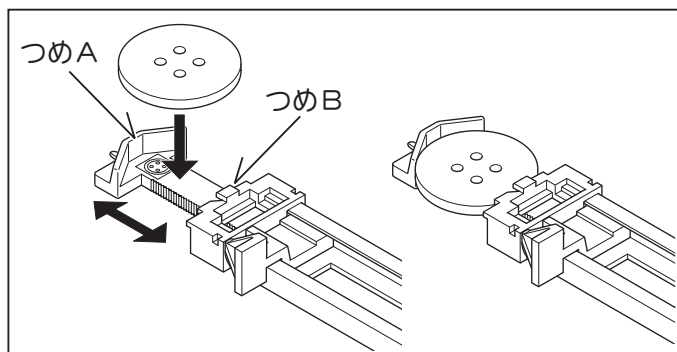
端の始末をする場合は、布端をこの模様で縫った後、模様に沿って布地を切り取ります。この際縫い目の糸を切らないように注意します。



ボタンホール (ボタン穴かがり)

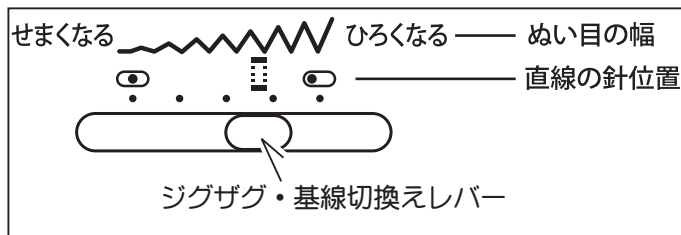
■ ボタンホール押えの使い方

- 1 押え金をボタンホール押えに交換してください。
- 2 つめAとつめBの間にボタンをはさみます。
- 3 ボタンの大きさに応じたボタンホールができます。



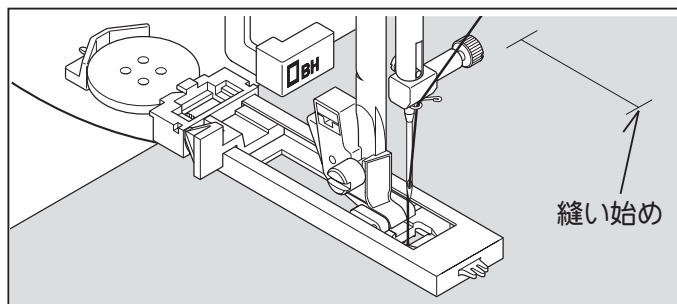
■ 縫い始めのセット

- 1 ジグザグ・基線切換えレバーをボタンホール位置にセットします。
- 2 ボタンホール押えをセットし、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。



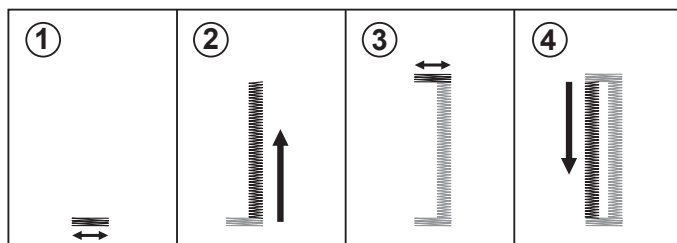
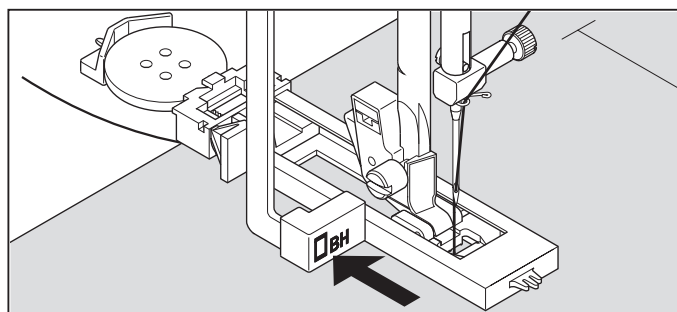
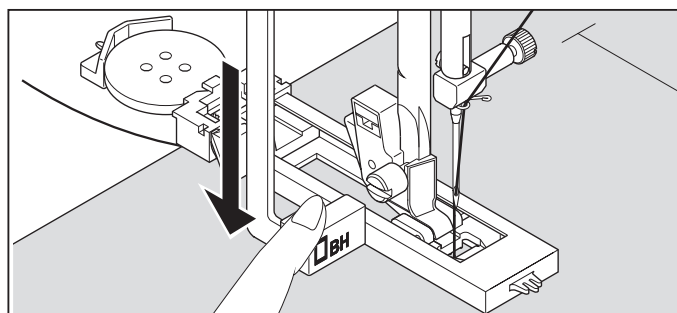
※ 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。

※ 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



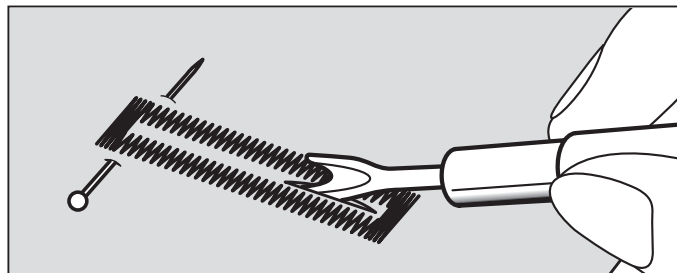
■ 縫い方

- 1 ボタンホールレバーを押し下げます。
- 2 ボタンホールレバーをカチッと音がするまで向こう側へ押します。
- 3 ミシンをスタートさせます。下記の順番に自動的に縫いあがります。終わりにスタート・ストップスイッチを押して停止します。縫い終わったら押えを上げます。



4 連続して縫う場合は、ボタンホール押えを次の縫い始めの位置に合わせて、押えを下げ、ステップ2、3をくり返します。

5 縫い終わったらリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。



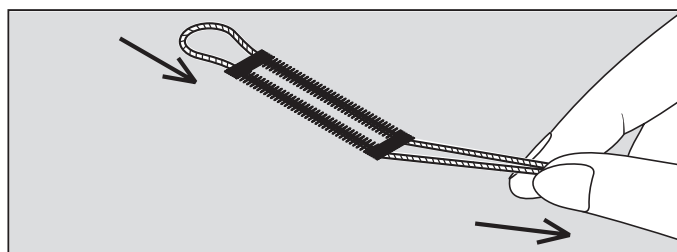
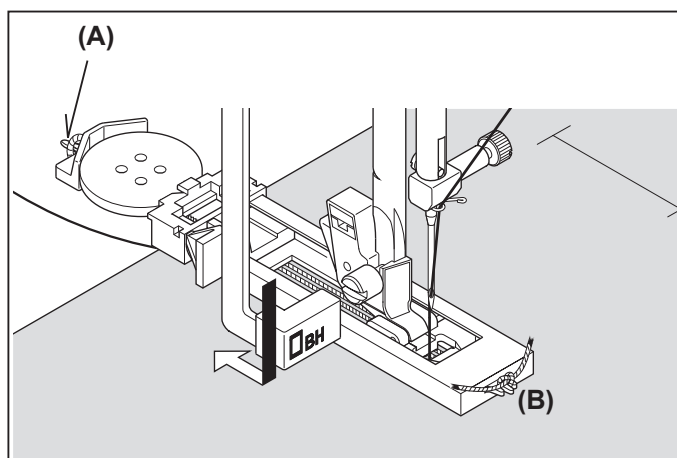
■ 芯入りボタンホール

■ 芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。

1 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起 (A) に引っかけて、押えの下を通して前の突起 (B) に結び付けます。

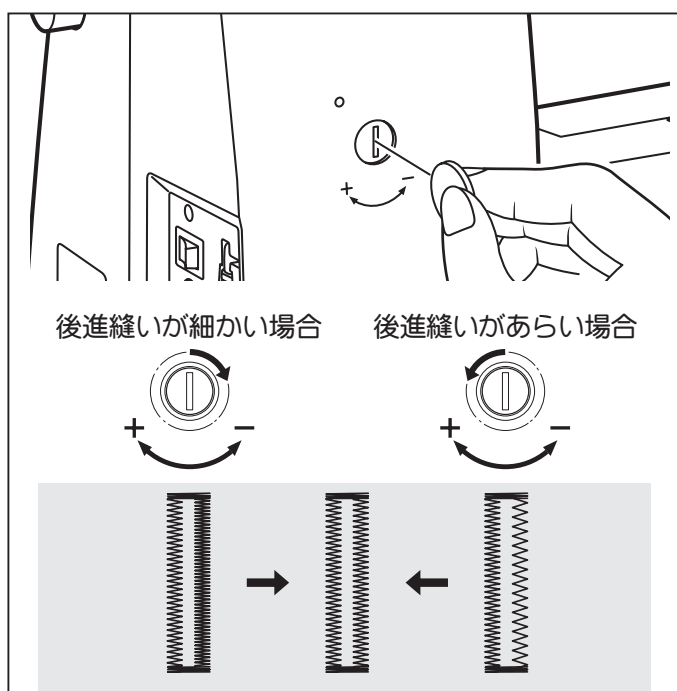
2 このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。

3 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、余分の糸を切り取ります。



■ 縫い目のバランス調整

出荷時にはボタンホールの前進、後進縫いのバランス調整を完全に行なっていますが、布質によって縫い目あらしが合わない場合は、微調整ネジで後進縫いのあらしを調整します。



3. ミシンのお手入れ …… ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。

送り歯とかまの掃除

ボビンケースやかまに糸がからんだ場合又は、ボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。



安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

1 プーリーを手前に回して針を最上点に上げ、押えをはずします。

2 針板 (A) をはずします。

3 ボビンケースを図のように抜き取ります。
ボビンケースに付着した糸くずを取り除いておきます。

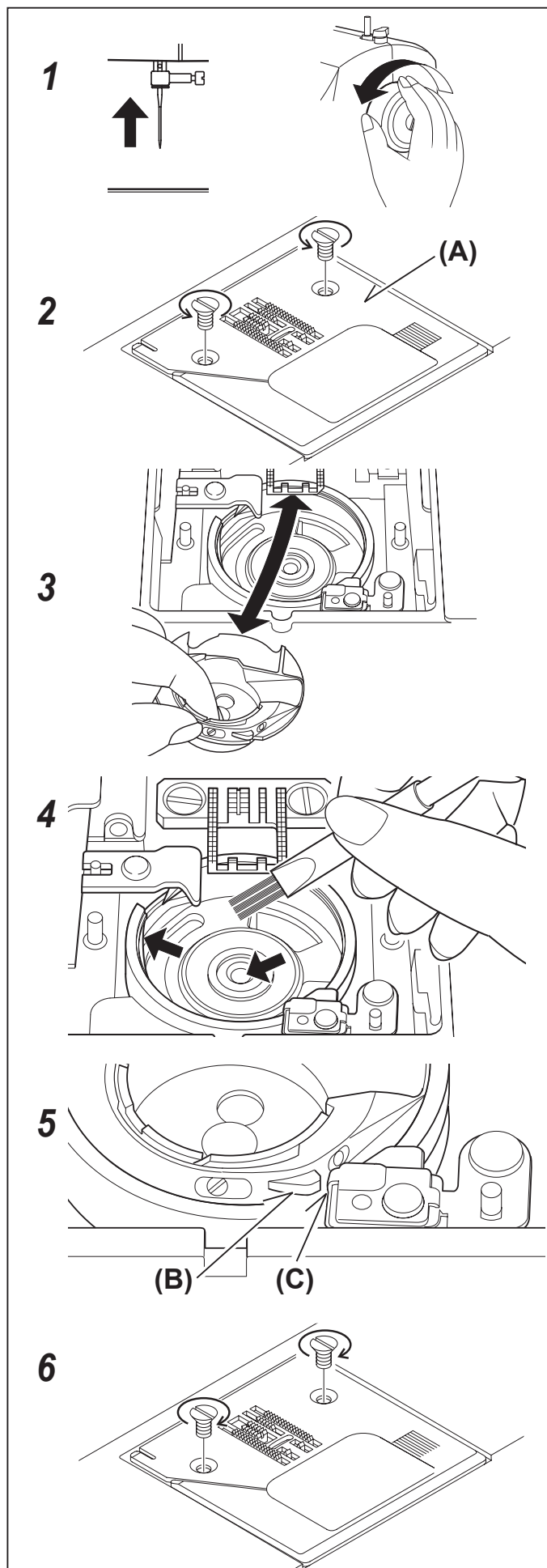
4 かま内部、周辺および送り歯のほこりをブラシや布できれいに取り除きます。溝隅のほこりが取れにくい時は爪楊枝でかまに傷をつけないようにして取り除きます。矢印の部分にミシン油を一滴さします。

⑧ 差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ボビンケースをかまに入れてください。

5 ボビンケースの突起部 (B) がストッパー (C) の左側にくるようにかまに入れます。

⑧ 正しくセットしないと、針がボビンケースに当たって傷がつき、縫えなくなる恐れがあります。

6 付属の鉄板用ネジ回しでネジをしっかりとめて、針板、かまカバーを取りつけます。

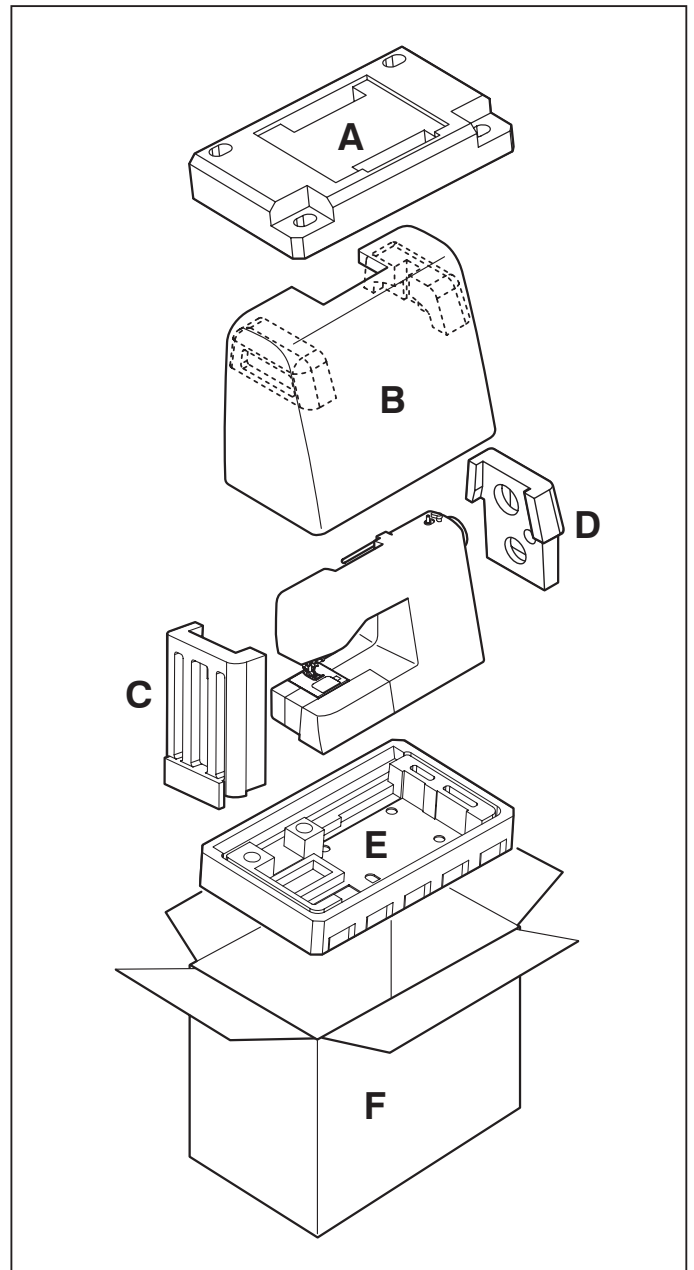


4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

こんな時には	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	12
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	6
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	6
上糸がかまにからまってミシンが回らない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		—
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		—
回転が重い音が高い	ボビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	31
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	31
布を送らない	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	14
	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	—
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバー右にして、送り歯を上げます。	9
	厚物縫いの場合		22
縫い目ととぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	14
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない。	正しくつけ直します。	14
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	23
	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	15
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	31
	縫いにくい布地の場合		22
針が折れる	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない。	正しくセットし直します。	14
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	—
	段縫いの場合		22
糸が布と針板の間でだんごになる	縫い始めに上糸を向こう側に引き出していない。	常に上糸を押えの下から向う側へ10cmほど引き出します。	17
上糸が切れる	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	15
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	23
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	14
下糸が切れる	下糸が正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	13
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	31
縫い物にしわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	23
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	14
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	—
	薄物縫いの場合		22

5. ミシンの梱包

- 1 スチロール (E) をカートン (F) に入れます。
- 2 ミシンをスチロール (E) に乗せ、スチロール (C、D) をセットします。
- 3 ハードカバー (B) をミシンとスチロール (C、D) にかぶせます。
- 4 スチロール (A) を取り付けます。





株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

つながらない場合は 電話 06-6900-1963

又は FAX 06-6902-0433